

平成30年度

科目名	造形概論	対象 単位数 必選	短期大学部 生活芸術科 2年 2単位 選択
担当教員	黒沼 令		
開講期	Ⅲ		
授業概要	造形概論は、現代社会において“ものを創る”とはどういうことなのかという、基本テーマによって進めます。創造的展開を前提とし、古今東西の絵画、彫刻、デザイン等あらゆるジャンルの造形物を中心にスライド・ビデオ・参考資料を使いながら解説し理解します。そして美術の多様な広がりや魅力を実感するとともに美術に対する親しみを一層深くし、授業を通して学んだことを日々の生活に生かしてゆくことを目標とします。		
達成目標	多様な造形表現について、自己の考えや鑑賞の仕方を深める事を目標とします。 また、レポート作成・発表を経験する事や他者の発表を聞く事で、プレゼンテーション能力を高める事、様々な考え方を知り、美術に対する視野を広げる事を目標とします。		
受講資格	生活芸術科 2年生	成績評価 方法	<ul style="list-style-type: none"> ・レポート発表 40% ・ペーパーテスト 30% ・授業態度 30% 以上の配分で評価する。 60点以上で合格とするが、授業理解度は7割以上を求める。
教科書	特になし		
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・ベーシック造形技法 宮脇理 監修 (建帛社) ・その他授業に関する画集、資料などは適宜指示する。 		
学生への要望	古今東西の名作に触れ、造形の面白さを再発見して下さい。 自分の美術に対する思いや考えをより探求する機会にしましょう。		
オフィスタイム	月曜日 Vコマ 水曜日 IV、Vコマ 木曜日 IV、Vコマ 彫刻室、No.2生芸研究室		
自学自習	事前学習：レポート作成、発表準備（1時間） 事後学習：発表を振り返り、ノートにまとめる（1時間）		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	オリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> ・[造形概論]という言葉の意味合いと、これからの授業の展開について。 ・形（造形の偉大さ）色（語りかける色）発想のイメージについての説明。
2	美術造形用語の解説	<ul style="list-style-type: none"> ・レポート課題発表、その後ディスカッション。 ・造形表現の諸相について解説及び説明。
3	絵画表現について	<ul style="list-style-type: none"> ・レポート課題発表、その後ディスカッション。 ・絵画の表現性について主に主題の解説及び説明。
4	絵画表現について	<ul style="list-style-type: none"> ・レポート課題発表、その後ディスカッション。 ・絵画の表現性について主に技法の解説及び説明。
5	彫刻表現について	<ul style="list-style-type: none"> ・レポート課題発表、その後ディスカッション。 ・彫刻の表現性について主に主題の解説及び説明。
6	彫刻表現について	<ul style="list-style-type: none"> ・レポート課題発表、その後ディスカッション。 ・彫刻の表現性について主に技法の解説及び説明。
7	デザイン表現について	<ul style="list-style-type: none"> ・レポート課題発表、その後ディスカッション。 ・デザインの表現性について主に主題の解説及び説明。
8	デザイン表現について	<ul style="list-style-type: none"> ・レポート課題発表、その後ディスカッション。 ・デザインの表現性について主に技法の解説及び説明。
9	工芸表現について	<ul style="list-style-type: none"> ・レポート課題発表、その後ディスカッション。 ・工芸の表現性について解説及び説明。
10	現代美術について	<ul style="list-style-type: none"> ・レポート課題発表、その後ディスカッション。 ・現代美術の表現性について解説及び説明。
11	現代美術について	<ul style="list-style-type: none"> ・レポート課題発表、その後ディスカッション。 ・絵画の表現性について解説及び説明。
12	様々な作家について 1	<ul style="list-style-type: none"> ・レポート課題発表、その後ディスカッション。 ・アーティストを紹介する事で具体的な表現性について解説及び説明を行う。
13	様々な作家について 2	<ul style="list-style-type: none"> ・レポート課題発表、その後ディスカッション。 ・アーティストを紹介する事で具体的な表現性について解説及び説明を行う。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
14	様々な作家について 3	<ul style="list-style-type: none">・レポート課題発表、その後ディスカッション。・アーティストを紹介する事で具体的な表現性について解説及び説明を行う。
15	レポート	<ul style="list-style-type: none">・レポート作成・半年間の授業のまとめ。

平成30年度

科目名	美学	対象 単位数 必選	短期大学部 生活芸術科 2年 2単位 必修/短期大学部 文化学科 2年 2単位 選択
担当教員	斎藤 美保子		
開講期	IV		
授業概要	絵を読む -15枚の絵画を歴史的、美学的に読み解く-		
達成目標	作品を深く理解する知識をみにつけ、更に、時代や地域によって異なる美学を感じ取る感性を磨く。		
受講資格	生活芸術科2年生	成績評価 方法	授業内で指示する課題 (50%) 論述式の期 末試験 (50%)
教科書	特には定めない		
参考書	辻惟雄監修『カラー版日本美術史』美術出版社、高階秀爾監修『カラー版西洋美術史』美術出版社等		
学生への要望	授業内で指示する資料を良く読み、紹介する美術館や美術展に積極的に出向くこと。		
オフィスタイム	月V、水V		
自学自習	授業内で扱う作品について、参考書等で良く調べる。休みの日には授業内で紹介する美術館や美術展を訪ね、作品を鑑賞する。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	源氏物語絵巻 1120年代	名古屋徳川美術館と東京五島美術館に分かれて現存する断簡を映像等で鑑賞、平安時代の美学を読み取る。
2	来迎図 13世紀	工房制作。鎌倉・室町時代の仏教絵画を映像等で鑑賞し、阿弥陀来迎図に託した美学を読み取る。
3	最後の晩餐 1495-97年	レオナルド・ダ・ヴィンチ作。ミラノの修道院食堂壁画を映像等で鑑賞し、その美学を読み取る。
4	聖母子画 16世紀初め	「聖母子画の画家」ラファエロの諸作を映像等で鑑賞し、カトリックの美学を読み取る。
5	真珠の耳飾りの少女	フェルメールの絵画を映像等で鑑賞し、オランダのバロック様式の市民的な美学を読み取る。
6	燕子花図屏風	尾形光琳の屏風絵を映像等で鑑賞し、江戸時代前半の洒脱な美学を読み取る。
7	バラを持つ王妃	女性画家ヴィジェ・ルブラン (1755~1842) が描いたフランス王妃の肖像画からロココの美学を読み取る。
8	ジャンヌ・ダルク	アンゲル (フランス1780~1867) の歴史画を映像等で鑑賞し、新古典主義の美学を読み取る。
9	富嶽三十六景 1831年~	葛飾北斎 (1760~1849) の代表作から、江戸時代後期の粋な美学を読み取る。
10	民衆を導く自由 1831年	ドラクロワ (フランス1798~1863) の七月革命を描いた代表作から、ロマン主義の美学を読み取る。
11	落ち穂拾い 1857年	ミレー (フランス1814~75) の代表作から、写実主義の美学を読み取る。
12	泉に寄る裸婦	ルノワール (1841~1919) の裸婦から、19世紀末のフランスの美学、印象主義を読み取る。
13	草屋根	浅井忠 (1856~1907) のデッサンから、明治初めの日本人が西洋絵画に抱いた憧れを読み取る。
14	睡蓮 1906年	モネの睡蓮連作から、フランス人がジャポニズムを経て20世紀初めに達した美学を読み取る。
15	オーダス	ダリのグラフィック・アートから、20世紀の美学を読み取る。

科目名	油彩画Ⅱ	対象 単位数 必選	短期大学部 生活芸術科 2年 2単位 選択
担当教員	浅野 章		
開講期	通年		
授業概要	油彩画Ⅰで学習したことを基礎として、より多様な表現方法や技術について演習し、技法とその効果を充分理解した上で作品を制作していきます。また、それと並行させながら様々な技法を試みて油彩の技術的向上を目指すと共に発想の柔軟性・表現の更なる深化を追究します。		
達成目標	油彩画の特質を充分に感じ、理解できるよう努力しましょう。そのうえで個性ある、自分だけの絵画空間を創りあげていくことを目指します。		
受講資格	生活芸術科2年生	成績評価 方法	この授業の理解度が7～8割に達したことを前提として次の項目を評価の観点とする。 ①提出作品の課題目標達成度が70%以上であること（配点80点） ②授業に対する関心・意欲・態度（配点20点）
教科書	教科書は使用せず適宜資料を配布します。 参考書や画集については適宜指示します。		
参考書	新版油彩画の技法（美術出版社）、絵具材料ハンドブック（中央公論美術出版）その他、授業に関する画集等は適宜指示します。		
学生への要望	油彩画を描くことの意味をよく考え、徹底的に自己の表現を追究すると共に遊び心を持って制作を存分に楽しむ。		
オフィスタイム	授業に関する質問・相談は、毎週火曜日～金曜日の授業のない時間に生芸研究室で受けます。		
自学自習	【事前学習】授業に関連する画集などを事前に閲覧、研究しておく。また絵具や画材についても調べておく。（1時間） 【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、機会があれば美術館や画廊などに足を運び、実物の油彩画作品を鑑賞してみる。（1時間）		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	ガイダンス	・授業目標と内容、および授業の進め方について。 ・油彩画の特色や歴史についての復習。 ・道具点検…各自油絵具や筆などを点検して不足分を画材店に発注する。（制作キャンバス含む）
2	同上	同上
3	自由画制作－1	・表現は具象・抽象のどちらでも可。モチーフは静物・風景・人物・構図画など選定は自由。 ・各種モチーフの組み合わせによる心象表現でも可。 ・F50号以上のキャンバス及びF4～6号程度の小キャンバスを数枚準備する。
4	同上	同上
5	自由画制作－2	基底材（キャンバス）の準備… ・木枠に布を張る（2人組共同作業）。または市販の張りキャンバスを使用。各自の制作意図によっては下地塗りもおこなう。 ・表現したいテーマについての取材やモチーフ選定、セット。
6	同上	同上
7	自由画制作－3	エスキース制作… ・スケッチやエスキース（下絵）などで構想を練る。 ・表現のイメージがある程度かたまったら50号または小キャンバスに制作を始める。
8	同上	同上
9	自由画制作－4	作品制作… ・表現意図をなるべく明確にする。 ・固有色の固定観念を排除し、頭をやわらかくして好きな色を好きな所に自由に塗ってみる。
10	同上	同上
11	自由画制作－5	作品制作とさまざまな技法の試み… ・50号制作と並行させて、小キャンバスにさまざまな技法を試みる。 ・大画面の絵具の乾燥を待つ間や発想の転換を図る際に有効。
12	同上	同上
13	自由画制作－6	作品制作とさまざまな技法の試み… ・さまざまな技法を試みながら作品制作における表現の深化を図っていく。 ・技法例－グリザイユ（単色描画法）、グラッシ（おつけ描き）、ドリッピング（液状絵の具の滴下）、フロット（刷り込み）、フロウイング（流し込み）、スクラッチング（引っかき）など。
14	同上	同上
15	自由画制作－7	作品制作とさまざまな技法の試み… ・さまざまな技法を試みながら作品制作における表現の深化を図っていく。 ・技法例－絵の具の掻き取りや盛り上げ、異物混入、コラージュ、デカルコマニー、フィンガーペインティング、プリンティング、その他。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
16	同上	同上
17	自由画制作－ 8	作品制作とさまざまな技法の試み… ・制作意図に応じて様々な技法を画面に応用したり、発想の転換を図ることなどを繰り返しながら画面上で各自の表現意図を絞り込んでいく。
18	同上	同上
19	自由画制作－ 9	作品制作… ・画面構成や色調が自分の表現意図に沿ったものであるかどうかを確認しながら、また全体の関係を見ながら制作を進める。
20	同上	同上
21	自由画制作－ 1 0	作品制作… ・細部に捕らわれず、絶えず画面全体の関係をみながら制作を進める。 ・画面上で強調したい部分と抑えるべき部分のバランスを考え、魅力のある画面創りを目指す。
22	同上	同上
23	自由画制作－ 1 1	作品制作… ・制作意図が十分に表現できているかどうかを確認しながら制作を進める。 ・参考作品や画集などを適宜、見せながら指導する。
24	同上	同上
25	自由画制作－ 1 2	作品制作… ・完成に近づきつつある作品を前に、更により深い表現を追究する。 ・細部にとらわれず、絶えず全体との関係でものを観る。
26	同上	同上
27	自由画制作－ 1 3	作品制作… ・細部にとらわれず、絶えず全体との関係でものを観る。 ・画面全体の構成要素のバランスを整えて完成に向かう。
28	同上	同上
29	自由画制作 < 講評会 >	・完成した作品を並べて一点一点講評する。 ・学生、教員の意見交換もおこない、作品制作のより高い目標達成を目指す。
30	同上	同上
31	後期ガイダンス	・授業の目標と内容、および授業の進め方についての説明。 ・用具材料の点検。(不足品については各自で購入補充する。)
32	同上	同上
33	自由画制作－ 1	作品制作…主題の設定とモチーフの取材および選択 ・テーマの設定は自由とする。表現は具象、抽象どちらでも可。モチーフの設定も自由。 ・自分のテーマに合うモチーフや作家の作品等について取材し、制作のコンセプトを明確にしていく。
34	同上	同上
35	自由画制作－ 2	作品制作…基底材(キャンパス)の準備 ・木枠に布を張る(2,3人組み共同作業)。F80号～F150号の木枠を準備する。 ・各自の制作意図によっては下地塗りもおこなう。
36	同上	同上
37	自由画制作－ 3	作品制作…エスキース制作 ・自由な発想で画面構成を試みる。 ・油彩画Ⅰや油彩画Ⅱ前半で試みた様々な技法も応用して自分の制作意図を絞り込んでいく。
38	同上	同上
39	自由画制作－ 4	作品制作… ・木炭エスキース、淡彩画、小キャンパスの利用などいろいろ試みながら発想の柔軟性を図り、画面構成をおこなう。
40	同上	同上
41	自由画制作－ 5	作品制作… ・構想がまとまり、画面構成がおおまかに決まったら大画面制作をはじめめる。 ・F80号以上のキャンパスを使用。
42	同上	同上
43	自由画制作－ 6	作品制作… ・細部に捕らわれず、絶えず画面全体の関係を見ながら制作を進める。 ・自分の制作意図をより効果的に表現するための、技法の選択と組み合わせも考えながら進める。
44	同上	同上
45	自由画制作－ 7	作品制作… ・制作意図に応じて、さまざまな技法を画面に取り入れてみる。 ・発想の転換を図ったりしながら画面上で自分の表現意図を絞り込んでいく。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
46	同上	同上
47	自由画制作－ 8	作品制作… ・画面構成や色調が自分の表現意図に沿っているかどうかを確認する。 ・全体の関係をみながら制作を進める。
48	同上	同上
49	自由画制作－ 9	作品制作… ・制作意図に沿っているかどうかを確認しながら制作を進める。 ・画面の中で強調、又は不必要な物を省略しながらいい形を探る。
50	同上	同上
51	自由画制作－ 10	作品制作… ・細部に捕らわれずに絶えず画面全体の関係をみながら制作を進める。 ・画面上で強調したい部分と抑えるべき部分のバランスを考え、魅力のある画面づくりを目指す。
52	同上	同上
53	自由画制作－ 11	作品制作… ・自分の制作意図やイメージに沿った作品となっているかどうかを絶えず確認する。 ・密度のある画面作りを目指して更に描き込む。
54	同上	同上
55	自由画制作－ 12	作品制作… ・完成に近づきつつある作品に対して、より深い表現となるよう追究する。 ・描きだしの新鮮さを思いだし、色が沈んでいる場合は彩度を上げてみる。
56	同上	同上
57	自由画制作－ 13	作品制作… ・必要に応じて強調や省略等を加え、画面全体の構成要素のバランスを整えて魅力ある完成度の高い画面づくりを目指す。 ・制作もかなり進んできたが、描きこむことによって表現が硬くならないように注意する。
58	同上	同上
59	自由画制作 < 講評会 >	完成した作品を並べ講評。 ・質問や意見交換なども多角的に行い油彩画制作の目標達成を目指す。 ・油彩画Ⅱの総評。
60	同上	同上

科目名	日本画 I	対象 単位数 必選	短期大学部 生活芸術科 2年 2単位 選択
担当教員	青砥 昭修		
開講期	Ⅲ		
授業概要	日本画 I では、日本画の伝統的な基礎技術及び知識を、実習を通して指導する。		
達成目標	<p>日本画に使用する岩絵具は、科学的に作られた蛍光絵具を除けばあらゆる絵具の中で最も発色がよく、美しい。その発色の良さ、美しさ故に日本画は西洋絵画に於ける陰影表現とは異なり、固有色と装飾性を通して物の表情を表す独特の表現方法を確立した。この授業では日本画の伝統的な岩を砕いて作る岩絵具、泥を乾燥させた水干絵具、貝殻を磨り潰して作る胡粉、植物染料、動物染料を使用しながら日本画の伝統的な技術の基礎を学ぶ。和紙や絹、箔に彩色していく上で、絵具の定着のさせ方、発色のさせ方、筆の使い方には知識と技術が必要だが、授業では和紙を使い、これらを分かり易く解説し学習していく。</p> <p>[その他]</p> <p>①鉛筆デッサンではH系の鉛筆は使用しないこと。着色する際に絵具をはじくため。</p> <p>②彩色は主に彩色筆、平筆を使用する。彩色の際は絵具の水分が多すぎないように注意すること。</p> <p>③(※1) (※2) ・岩絵具は岩を砕いて作る絵具で粒子の大きさ別に、白、13番、12番・・・5番のようにわかれる。番号の大きいものほど粒子が細かい。白はもっとも粒子が細かい。同じ色でも粒子が細かいほど彩度が低く白っぽい。</p> <p>(※3) ・岩絵具は砂なので、水彩絵具や油絵具のように絵具同士が混ざり合わない。しかし、水干絵具は泥絵具なので混ぜることができる。ただし、ほとんどの水干絵具は比重が異なるので彩色する際はよく攪拌すること。岩絵具でも攪拌して筆に含まれば混ざり合ったような色にはなる。しかし粒子が粗いものは慣れないと難しいので、細かいもの(13番～12番程度)で混ぜる方がよい。</p> <p>・岩絵具の彩色は毎回完全に絵具が乾いてから次の色を置く。乾く前に次の色を置くと、絵具が動いて濁ってしまう。また、水分が多いと綺麗に発色しない。</p>		
受講資格	生活芸術科 2年生	成績評価 方法	制作態度 (30%) ・ 提出作品 (70%) とする。
教科書	授業の進度に応じて提示する。		
参考書	特に指定しない。		
学生への要望	自主性を望む。[備考] 1. ガイダンスでは制作工程のプリントを配布する。 2. 道具や材料(各自で用意) ①F8のパネル、②画用紙(F8よりも四辺それぞれ1cmずつ大きいもの)、③水張りテープ、④鉛筆(H～3B)、⑤消しゴム または 練ゴム、⑥水干絵具 または 岩砕絵具、⑦パレット、⑧水入れ 3. モチーフ(各自で用意) 果物、花などの有機物2品と、無機物小物2～3品 4. 専用の筆(学校に申し込む) 日本画用の筆 ※購入する筆の種類及び本数は別紙配布する。「申込書」を参照のこと。		
オフィスタイム	金曜3・4限のNo.2生芸研究室など。		
自学学習	授業内で学んだことを自分のものとしてできるよう事後学習を2時間程度行ってください。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	ガイダンス	日本画の特色、制作工程・道具の説明など
2	実習	◎ドーサ液を作る(※ドーサ液の作り方は別紙配布プリントを参照のこと。授業でも指導する) □ドーサ引き:麻紙の表に2回、裏に1回塗る。毎回完全に乾かす。 □デッサン:モチーフをセットする。それぞれの物が隣接し過ぎたり、縦横或いは斜め一列に並んだりしないようにバランスを考えて配置する。又、画面内の配色にも気を使う。モチーフの配置が決まったら、鉛筆で全体の当たりを付け、構図を見る。(※着色写生だからといって怖がらずに調子をたっぷり置く)
3	実習	□デッサン:それぞれの物の特徴を表す箇所を描き込みながら、全体のバランス(位置関係、大きさ、質感の違い、重さ、固有色<明度差に置き換える>など)を確認する。この段階では細部を描き込むことはせず、B系の鉛筆で描き進める。(※ドーサ引きが終わっていない場合は続きを行う。)
4	実習	□デッサン:主役となるものの細部を少しずつ描き込んでいく。描き込みのバランスを見ながら、必要に応じて他の物の細部も描き込んでいく。花や白っぽい物には調子を描き過ぎないように注意すること。
5	実習	□デッサン:全体に細部を描き込んでいく。複雑な所もぼかすことなく描写していく。物が台に接している部分の影は必要以上に描かなくてよい。
6	実習	□デッサン:画面を離れた所から見て描き込みの不足している部分を確認し、モチーフの印象を意識しながら描写していく。調子が付き過ぎた箇所は練りゴムで取っておく。調子のバランスを確認するには画面を逆さにしたり、鏡に映してみると良い。刷毛に水を含ませ画面全体の鉛筆の粒子を拭き取る。B系の鉛筆も発色は良いが、画面に粒子が残り彩色する時に色が濁るので、彩色する前に鉛筆の粒子を拭き取っておく。
7	実習	□着色写生:全体に固有色下地となる色を置いていく。但し、白っぽい物に下地の色を置く時は、最終的に濁ったり、別紙色にならないように気をつけること。水彩絵具は置いた色が完全に乾いてから次の色を置く。全体に下地を置いたら物の固有色をやや薄めに置く。この段階で画面全体を見て、次に加筆していく箇所を確認し、筆の入れ方、主役と脇役の加筆密度、加筆の手順を決める。
8	実習	□着色写生:全体に細部を描き込んでいく。複雑な所もぼかすことなく描写していく。物が台に接している部分の影は必要以上に描かなくてよい。
9	実習	□着色写生:モチーフの印象に近づけるよう更に描写していく。固有色、質感、重さなどを描き分け仕上げていく。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
10	実習	<p>□トレース：仕上がった着色写生にトレーシングペーパーをあて、鉛筆で輪郭をトレースする。模様などもはっきりしている場合はトレースする。 □本紙（雲肌麻紙）張り込み：着色写生をパネルから剥がし、本紙を水張りする。 □骨描き：本紙とトレースしたトレーシングペーパーの間に念紙（転写紙）を挟んでトレースする。トレースが完了したら墨でトレース線の上をなぞる。 □絵具の溶き方・筆の使い方を説明 □胡粉の作る □胡粉を塗る：骨描きの終わった本画に胡粉を塗る。骨描きの線が彩色の邪魔にならない程度に弱めることと、発色を良くするために様子を見ながら何度か塗る。（※毎回、完全に絵具が乾いてから次を塗る） □背景に下地の色を置く：水干絵具又は岩絵具の白（びやく/※1）で背景を塗る。この下地は仕上がりの背景色に影響するので慎重に色を決める。※上から塗る絵具の定着を良くするために、下地の絵具に盛り上げ又は方解末12番（※2）を混ぜてもよい。 □彩色①：全体に下地の色を置いていく。この段階では水彩絵具、白（びやく）、13番（※2）など粒の細かい絵具で彩色する。岩絵具は一旦暗くすると明るくするのが困難なので明るめに彩色していく。また、他の絵具のように混ぜても別の色を作れない（※3）ので、基本的には重ね塗りして下の色を透かせることで微妙な色を表現する。 □彩色②：徐々に絵具の粒子を荒くして固有色を置いていく。粒子が荒くなると絵具を均一に塗るのが難しいので（砂のため）、塗るというより置くという感じで筆を使う。モチーフと背景の色の調和が取れるように進める。むやみに粒子の粗い絵具を使うと物の質感が損なわれることもあるので、色だけではなく粒子の大きさも考慮する。</p>
11	実習	<p>□トレース：仕上がった着色写生にトレーシングペーパーをあて、鉛筆で輪郭をトレースする。模様などもはっきりしている場合はトレースする。 □本紙（雲肌麻紙）張り込み：着色写生をパネルから剥がし、本紙を水張りする。 □骨描き：本紙とトレースしたトレーシングペーパーの間に念紙（転写紙）を挟んでトレースする。トレースが完了したら墨でトレース線の上をなぞる。 □絵具の溶き方・筆の使い方を説明 □胡粉の作る □胡粉を塗る：骨描きの終わった本画に胡粉を塗る。骨描きの線が彩色の邪魔にならない程度に弱めることと、発色を良くするために様子を見ながら何度か塗る。（※毎回、完全に絵具が乾いてから次を塗る） □背景に下地の色を置く：水干絵具又は岩絵具の白（びやく/※1）で背景を塗る。この下地は仕上がりの背景色に影響するので慎重に色を決める。※上から塗る絵具の定着を良くするために、下地の絵具に盛り上げ又は方解末12番（※2）を混ぜてもよい。 □彩色①：全体に下地の色を置いていく。この段階では水彩絵具、白（びやく）、13番（※2）など粒の細かい絵具で彩色する。岩絵具は一旦暗くすると明るくするのが困難なので明るめに彩色していく。また、他の絵具のように混ぜても別の色を作れない（※3）ので、基本的には重ね塗りして下の色を透かせることで微妙な色を表現する。 □彩色②：徐々に絵具の粒子を荒くして固有色を置いていく。粒子が荒くなると絵具を均一に塗るのが難しいので（砂のため）、塗るというより置くという感じで筆を使う。モチーフと背景の色の調和が取れるように進める。むやみに粒子の粗い絵具を使うと物の質感が損なわれることもあるので、色だけではなく粒子の大きさも考慮する。</p>
12	実習	<p>□トレース：仕上がった着色写生にトレーシングペーパーをあて、鉛筆で輪郭をトレースする。模様などもはっきりしている場合はトレースする。 □本紙（雲肌麻紙）張り込み：着色写生をパネルから剥がし、本紙を水張りする。 □骨描き：本紙とトレースしたトレーシングペーパーの間に念紙（転写紙）を挟んでトレースする。トレースが完了したら墨でトレース線の上をなぞる。 □絵具の溶き方・筆の使い方を説明 □胡粉の作る □胡粉を塗る：骨描きの終わった本画に胡粉を塗る。骨描きの線が彩色の邪魔にならない程度に弱めることと、発色を良くするために様子を見ながら何度か塗る。（※毎回、完全に絵具が乾いてから次を塗る） □背景に下地の色を置く：水干絵具又は岩絵具の白（びやく/※1）で背景を塗る。この下地は仕上がりの背景色に影響するので慎重に色を決める。※上から塗る絵具の定着を良くするために、下地の絵具に盛り上げ又は方解末12番（※2）を混ぜてもよい。 □彩色①：全体に下地の色を置いていく。この段階では水彩絵具、白（びやく）、13番（※2）など粒の細かい絵具で彩色する。岩絵具は一旦暗くすると明るくするのが困難なので明るめに彩色していく。また、他の絵具のように混ぜても別の色を作れない（※3）ので、基本的には重ね塗りして下の色を透かせることで微妙な色を表現する。 □彩色②：徐々に絵具の粒子を荒くして固有色を置いていく。粒子が荒くなると絵具を均一に塗るのが難しいので（砂のため）、塗るというより置くという感じで筆を使う。モチーフと背景の色の調和が取れるように進める。むやみに粒子の粗い絵具を使うと物の質感が損なわれることもあるので、色だけではなく粒子の大きさも考慮する。</p>
13	実習	<p>□トレース：仕上がった着色写生にトレーシングペーパーをあて、鉛筆で輪郭をトレースする。模様などもはっきりしている場合はトレースする。 □本紙（雲肌麻紙）張り込み：着色写生をパネルから剥がし、本紙を水張りする。 □骨描き：本紙とトレースしたトレーシングペーパーの間に念紙（転写紙）を挟んでトレースする。トレースが完了したら墨でトレース線の上をなぞる。 □絵具の溶き方・筆の使い方を説明 □胡粉の作る □胡粉を塗る：骨描きの終わった本画に胡粉を塗る。骨描きの線が彩色の邪魔にならない程度に弱めることと、発色を良くするために様子を見ながら何度か塗る。（※毎回、完全に絵具が乾いてから次を塗る） □背景に下地の色を置く：水干絵具又は岩絵具の白（びやく/※1）で背景を塗る。この下地は仕上がりの背景色に影響するので慎重に色を決める。※上から塗る絵具の定着を良くするために、下地の絵具に盛り上げ又は方解末12番（※2）を混ぜてもよい。 □彩色①：全体に下地の色を置いていく。この段階では水彩絵具、白（びやく）、13番（※2）など粒の細かい絵具で彩色する。岩絵具は一旦暗くすると明るくするのが困難なので明るめに彩色していく。また、他の絵具のように混ぜても別の色を作れない（※3）ので、基本的には重ね塗りして下の色を透かせることで微妙な色を表現する。 □彩色②：徐々に絵具の粒子を荒くして固有色を置いていく。粒子が荒くなると絵具を均一に塗るのが難しいので（砂のため）、塗るというより置くという感じで筆を使う。モチーフと背景の色の調和が取れるように進める。むやみに粒子の粗い絵具を使うと物の質感が損なわれることもあるので、色だけではなく粒子の大きさも考慮する。</p>
14	実習	<p>□彩色：細部の描写をしていく。</p>

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
15	実習	□彩色：最後の彩色をする前に画面を離れた所から見て全体のバランスを見る。どこにどう加筆していくかを決めて仕上げに入る。 □講評：作品の完成度、絵具の定着性と発色、制作工程での問題点などを各人の意図に即して講評していく。

科目名	日本画Ⅱ	対象 単位数 必選	短期大学部 生活芸術科 2年 2単位 選択
担当教員	青砥 昭修		
開講期	Ⅳ		
授業概要	日本画Ⅰを受講した学生が望ましい。日本画Ⅱでは日本画Ⅰをもとに更に専門的な技術及び知識を指導するが、日本画Ⅱからの受講生には日本画の伝統的な基礎技術及び知識を指導する。		
達成目標	<p>■日本画Ⅰを受講した学生 1. 絹本(絹に描く) 2. 箔をつかった制作 3. 揉み紙に描く の三つの中から選択する。複数の選択も可能である。※揉み紙…二つの色を重ねて麻紙に塗り、紙を揉むことによって皺を作り、皺の部分から下地の色を見せる技法を学修する。</p> <p>■日本画Ⅱから受講する学生 日本画の代表的な絵具(岩絵具、水干絵具、胡粉)を使用し、静物画を制作する。筆の種類、用法や絵具を紙に定着させるための膠の用法について学ぶ。また使用する麻紙の種類及び用法について学修する。</p>		
受講資格	生活芸術科 2年生	成績評価 方法	制作姿勢(30%)・提出作品(70%)とする。
教科書	授業の進度に応じて提示する。		
参考書	特に指定しない。		
学生への要望	自主性を望む		
オフィスタイム	金曜3・4限のNo.2生芸研究室など。		
自学自習	授業内で学んだことを自分のものとしてできるよう事後学習を2時間程度行ってください。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	ガイダンス	【絹本】・制作工程の説明・木枠に糊を刷り込む：絹を張り込む部分に糊を刷り込む。完全に乾いたらもう一度塗る。・下図用紙の準備：木枠の大きさに合わせて画用紙を切る。【箔を使った制作】と【揉み紙による制作】 共通・制作工程の説明・ドーサ液を作る：麻紙を半吸収性加工するためにドーサ液を作る。・ドーサ引き：出来上がったドーサ液を各自の作品サイズの大きさに合わせて切った雲肌麻紙の表に1回塗る。・水張り：下図用として画用紙をパネルに水張りする。(F6号 又は F8号)
2	実習	【絹本】・絹を張り込む・下図デッサン：モチーフを選定し、印象と特徴をとらえながら鉛筆で下図デッサンする。最初は構図を考えながら進める。【箔を使った制作】と【揉み紙による制作】 共通・麻紙の表に2回目のドーサ液を塗る。乾いたら麻紙の裏にドーサ液を1回塗る。・下図デッサン：モチーフを選定し、印象と特徴をとらえながら鉛筆で下図デッサンする。最初は構図を考えながら進める。
3	実習	【絹本】・ドーサ液を作る：絹を半吸収加工するためのドーサ液を作る。・ドーサ引き：絹の表に2回ドーサを引く。1回ごとに完全に乾かす。・下図デッサン：余白との大きさのバランスを考えながら少しずつ具体化していく。固有色の明度差を見極め、調子を置いていく。【箔を使った制作】・下図デッサン：余白との大きさのバランスを考えながら少しずつ具体化していく。固有色の明度差を見極め、調子を置いていく。・麻紙の張り込み：ドーサ引きした麻紙をパネルに水張りする。・捨て膠を作る：箔の付きを良くするために、5分の1～7分の1に薄めた膠水を3～5回塗る。(毎回完全に乾かす)【揉み紙による制作】・下図デッサン：余白との大きさのバランスを考えながら少しずつ具体化していく。固有色の明度差を見極め、調子を置いていく。・膠を作る・地塗り：水干絵具又は墨で地塗りする。この地塗りの色が揉み紙完成時に皺として見えてくる。
4	実習	【絹本】と【箔を使った制作】と【揉み紙による制作】 共通・下図デッサン：全体の印象を大切に描き進めながら、必要に応じてモチーフの特徴を現わすために必要となる形の変化、色の変化、質感の差などを描写していく。【揉み紙による制作】・地塗り：1回目に置いた色とは別の色を置く。最初の色が見えなくなるように濃い目に塗る。この地塗りでは膠を混ぜない、もしくは混ぜてもごく少量にする。
5	実習	【絹本】と【箔を使った制作】と【揉み紙による制作】 共通・下図デッサン：固有色を明度差に置き換えながら調子を置き、全体のバランスを崩さないよう細部の描写をしていく。
6	実習	【絹本】と【箔を使った制作】と【揉み紙による制作】 共通・下図デッサン：混み入ったところ、明度の同じようなところ、わかりづらいところなどをごまかさないように描写していく。
7	実習	【絹本】と【箔を使った制作】と【揉み紙による制作】 共通・下図のトレース：下図のデッサンの輪郭線をトレーシングペーパーにトレースする。模様やはっきりした色の変化などは境目をトレースする。(調子は入れなくても良い。)【絹本】・本画へのトレース(骨描き)：下図をトレースしたトレーシングペーパーを絹の下に置き、墨でトレースする。・胡粉を塗る：絹目を埋め、骨描きを適度に目立たなくするために胡粉を塗る。胡粉を塗る際は刷毛を使い、画面全体に同じ方向に塗り、次に空刷毛を使い全体に絵具を延ばして刷毛跡を無くし完全に乾かす。絹目の残り具合と骨描きの濃さがちょうど良くなるまでこの作業を繰り返す。【箔を使った制作】・箔をあかす：箔は直接指で掴んだり何かで持ち上げたりできないので、ロウのついたあかし紙に一旦貼りつける。あかし紙は箔より大きくできているので、余白を掴めば箔を傷つけずに移動することができる。(※箔はとても薄く、指で触ったりすると、くっついてしまう。また指以外のものでも触ったりしても破れたり傷ついたりする、さらに、少しの風でも飛んでしまう。)・箔を貼る：箔を貼る部分に薄い膠水(通常の5分の1程度に希釈したもの)を塗り、あかした箔を載せる。すぐにあかし紙を剥がせば箔だけが画面に残る。この作業を繰り返して画面全体に箔を貼る。【揉み紙による制作】・紙を揉む：地塗りの済んだ紙の角を両手で持ち、対角線方向に揉みながら丸めていく。丸め終わったら紙を開き、裏から指で弾き、剥がれた絵具を落とす。・アイロンをかける：丸め終わった紙を平らにするためにアイロンをかける。・揉み紙をパネルに張り込む：裏から水打ちして揉み紙を延ばし、パネルに袋貼りする。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
8	実習	【絹本】・絵具の溶き方、筆の使い方の説明 ・地塗り：水干絵具や白（びやく）系の岩絵具で背景を地塗りする。同様に主役モチーフ部分の地塗りをする。 ・彩色：モチーフの印象を意識しながら色を置いていく。最初は粒子の細かい絵具で面積の広い部分から全体に彩色する。 【箔を使った制作】 ・捨てドーサを引く：箔は金属なのでそのままでは絵具がつかない。そのため薄めたドーサ液（通常の2分の1程度に希釈したもの）を3～4回塗り、絵具が定着するよう加工する。ドーサ液は1回ごとに完全に乾かす。 【揉み紙による制作】 ・ドーサ引き：揉み紙は、そのままでは地塗りの絵具が取れてしまうので、2～3回ドーサ引きをして地塗りの絵具を定着させる。（1回ごとに完全に乾かす） ・骨描き：画面に転写紙を置き、その上下図をトレースしたトレーシングペーパーを重ねてトレース線の上を色つきボールペンでなぞり、本画面に写す。完了したら写した線を改めて墨で線描きする。
9	実習	【絹本】・彩色：この段階ではまだ細部を描き込まず、できるだけ大きな部分を固有色の下地となるように彩色する。 【箔を使った制作】 ・絵具の溶き方、筆の使い方を説明 ・骨描き：画面に転写紙を置き、その上下図をトレースしたトレーシングペーパーを重ねてトレース線の上を色つきボールペンでなぞり、本画面に写す。完了したら写した線を改めて墨で線描きする。 ・彩色：水干絵具や白（びやく）系の岩絵具で固有色の下地となる色を置いていく。 【揉み紙による制作】 ・絵具の溶き方、筆の使い方を説明 ・彩色：モチーフの印象を意識しながら色を置いていく。最初は粒子の細かい絵具（水干絵具や白（びやく）系の岩絵具）で彩色する。全体に彩色し過ぎると揉み紙の表情が生かされないので、揉み紙の表情を残す部分を決めてから彩色する。
10	実習	【絹本】と【箔を使った制作】と【揉み紙による制作】 共通 ・彩色：下地の絵具に塗りムラがある個所を更に重ね塗りし、全体に絵具を発色させる。
11	実習	【絹本】・彩色：下地の絵具よりも粒子の粗い岩絵具でモチーフの表情（固有色、質感など）を描く。モチーフに彩色するに従って背景にも必要に応じて彩色するが、絹目を殺し過ぎないように注意する。 【箔を使った制作】 ・彩色：下地の絵具よりも粒子の粗い岩絵具でモチーフの表情（固有色、質感など）を描く。 【揉み紙による制作】 ・彩色：下地の絵具よりも粒子の粗い岩絵具でモチーフの表情（固有色、質感など）を描く。モチーフに彩色するに従って背景にも必要に応じて彩色するが、揉み紙の表情を殺さないよう注意する。
12	実習	【絹本】と【箔を使った制作】と【揉み紙による制作】 共通 ・彩色：モチーフの特徴を現わすために必要となる細部を描き込んでいく。
13	実習	【絹本】と【箔を使った制作】と【揉み紙による制作】 共通 ・途中講評：制作後半に注意すべき点、手順、現状確認などを行い講評する。また、絵具の定着を確認し、問題がある場合は適宜対処方法を指示する。 ・彩色：全体的に細部を描き込んでいく。この段階では細部を描きながらも全体と部分の兼ね合いを見るため、時々画面を離れた距離から見て確認する。
14	実習	【絹本】・さらに全体に描き込んでいく。全体にかっ込んでいくに入れて背景も必要に応じて彩色するが、全体に絹目が消えてしまうほど塗り込みすぎないように注意する。 【箔を使った制作】 ・さらに全体に描き込んでいく。 【揉み紙による制作】 ・さらに全体に描き込んでいく。全体に描き込んでいくに入れて背景も必要に応じて彩色するが、全体に揉み紙の表情が消えてしまうほど塗り込みすぎないように注意する。
15	実習	【絹本】と【箔を使った制作】と【揉み紙による制作】 共通 ・彩色：仕上げの彩色に入るが、全体を見て描き込みの足りない部分や固有色の発色が足りない部分を確認して加筆していく。 ・講評：制作に関しての感想を述べてもらいながら反省点や作品評価などについて講評する。

科目名	彫刻Ⅱ	対象 単位数 必選	短期大学部 生活芸術科 2年 2単位 選択
担当教員	黒沼 令		
開講期	通年		
授業概要	<p>現代彫刻は、彫刻と一口に言っても、写実的なものから、抽象的なもの、またはインスタレーションなどの設置空間を意識したものや、フィギュア的なものなど、多様な表現の幅や表現形式があります。その事は、彫刻概念の拡大と展開を表すと同時に、「彫刻とは何か」という定義が曖昧なものになりつつあることを表しています。</p> <p>以上の事を踏まえながら、彫刻Ⅱでは、彫刻Ⅰで学習した彫刻における基礎的技法や表現を発展、展開させ、より表現的で自由な作品の制作を行います。また、課題制作を通して、彫刻の造形要素（量感、動勢、均衡、構造など）や表現意義などをさらに理解するとともに、造形活動の充実感や達成感を味わっていくことを目標とします。</p>		
達成目標	<p>彫刻作品の制作を通して、彫刻の技法と表現を学ぶことを目標とします。</p> <p>また、もみじ会等の発表の機会に作品を展示し、学習の成果を確認します。</p>		
受講資格	生活芸術科2年	成績評価 方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 課題作品 70% ・ 授業態度 30% <p>以上の配分で評価する。 60点以上で合格とするが、授業理解度は7割以上を求める。</p>
教科書	教科書は無し。		
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大学図書館の彫刻関係図書 ・ 美術館（福島県立、郡山市立、他） ・ 街の中の彫刻（仙台市、福島市、他） ・ 公募展覧会 		
学生への要望	野外彫刻作品を鑑賞したり、機会があれば彫刻の展覧会を見ることなどを心がけてほしい。		
オフィスタイム	<p>月曜日 Vコマ 水曜日 IV、Vコマ 木曜日 IV、Vコマ 彫刻室、No.2生芸研究室</p>		
自学自習	事前学習、事後学習：授業の内容についてより理解を深めるため授業外にも課題制作を進める事（1時間）		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	彫刻Ⅱの授業について	<ul style="list-style-type: none"> ・ 彫刻Ⅱの履修および授業の年間計画について ・ 彫刻室の使用について ・ 準備する道具、材料、費用について ・ 彫刻の基礎的な学習
2	塑造（レリーフ作品の制作）	<p>◆レリーフとは平面と立体の中間的表現である。レリーフの表現と技法を学ぶと共に、石膏取りについて学習する。</p> <p>《課題についての説明、デッサン》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ レリーフをつくる目的、意義について ・ 好きな絵画作品を選び、構想する。 ・ 塑造板、道具の準備。
3	塑造（レリーフ作品の制作）	<p>《モデリング・1》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 塑造板にベースとなる粘土を付けていく。 ・ ベースにデッサンを入れる。 ・ 粘土を粗付けしていく。
4	塑造（レリーフ作品の制作）	<p>《モデリング・2》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 第3回に同じ
5	塑造（レリーフ作品の制作）	<p>《モデリング・3》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 第4回に同じ
6	塑造（レリーフ作品の制作）	<p>《モデリング・4》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 形を確かめながら、奥行き表現、表面処理について検討し仕上げていく。
7	塑造（レリーフ作品の制作）	<p>《モデリング・5》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 第6回に同じ
8	塑造（レリーフ作品の制作）	<p>《石膏取り・1》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 石膏取りの技法について学習する。 ・ 雌型をつくる。 ・ 粘土をかき出す。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
9	塑造（レリーフ作品の制作）	《石膏取り・2》 ・雄型をつくる。 ・割り出しする。
10	塑造（レリーフ作品の制作）	《石膏着色》 ・着色の技法について学習する。 ・石膏作品に着色する。
11	木彫（自由制作）	◆木は古くから彫刻用の素材として盛んに扱われ、日本では主に仏像として多くの優れた作品を残してきた。現代彫刻においても、具象、抽象を問わず、扱いやすさや身近さから多くの彫刻家が好んで用いている素材である。この課題では、木彫を通してカービングの基礎的な技法と表現を学習する。 《課題についての説明、デッサン》 ・木彫をつくる目的、意義について ・道具や技法についての学習
12	木彫（自由制作）	《デッサン・1》 ・テーマ「人物の頭像」（それ以外は自由。写実的表現でも、空想的表現でもかまわない。） ・テーマについて検討し、デッサンする。 ・頭部をつくる基本をおさえる。
13	木彫（自由制作）	《カービング・1》 ・木材にデッサンを入れる。 ・粗彫りする。
14	木彫（自由制作）	《カービング・2》 ・第13回に同じ
15	木彫（自由制作）	《カービング・3》 ・第14回に同じ
16	木彫（自由制作）	《カービング・4》 ・第15回に同じ
17	木彫（自由制作）	《カービング・5》 ・第16回に同じ
18	木彫（自由制作）	《カービング・6》 ・第17回に同じ
19	木彫（自由制作）	《カービング・7》 ・第18回に同じ
20	木彫（自由制作）	《カービング・8》 ・第19回に同じ
21	木彫（自由制作）	《カービング・9》 ・以下の事を確認しながら制作を進める。 ①完成イメージについて ②形の正確さ ③マッサ、ボリュームなどの彫刻的魅力
22	木彫（自由制作）	《カービング・10》 ・第21回に同じ
23	木彫（自由制作）	《カービング・11》 ・第22回に同じ
24	木彫（自由制作）	《カービング・12》 ・第23回に同じ
25	木彫（自由制作）	《カービング・13》 ・第24回に同じ
26	木彫（自由制作）	《カービング・14》 ・第25回に同じ
27	木彫（自由制作）	《カービング・15》 ・細部の制作 ・やすりなどを使い仕上げていく。 ・希望によって着色などで完成させる。
28	木彫（自由制作）	《カービング・16》 ・第27回に同じ
29	木彫（自由制作）	《カービング・17》 ・第28回に同じ
30	合評会	《合評会》 ・合評会を行う

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
---	----	------

平成30年度

科目名	陶芸 I	対象 単位数 必選	短期大学部 生活芸術科 2年 2単位 選択
担当教員	佐竹 敦夫		
開講期	Ⅲ		
授業概要	陶磁器の歴史、陶芸の材料、技法についての基礎的な知識を学習するとともに、基本的な作品の制作演習を行う。陶磁器は、土の採掘から焼成まで多くの工程を経て完成するが、陶芸 I の授業では成型段階の作業を中心に課題を設ける。		
達成目標	制作にあたっては、用途、条件を考え、使うものであれば機能性（使いやすさ）、装飾性（美しさ）、あるいは造形性の追求を念頭に、いろいろな手づくりの技法の習得を目標とする。		
受講資格	生活芸術科2年	成績評価 方法	①制作態度30% ②提出作品40%③レポート30%とする。
教科書	教科書はなし。陶芸関係図書、図録は適宜紹介する。美術館・博物館にも足を運んで、作品に触れる機会を持つこと。		
参考書	特に指定しない。		
学生への要望	やきものに関心を持ち、美しいもの、使いやすいものを鑑賞したり、使ったりするように心掛ける。		
オフィスタイム	火曜3・4限のNo.2生芸研究室など。		
自学自習	授業内で学んだことを自分のものとしてできるよう事後学習を2時間程度行ってください。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	陶芸 I の授業について	・陶芸 I の履修及び授業計画について説明する。 ・やきものの歴史を概観し、やきものと人間、やきものと生活について考える。 ・やきものの材料について学び、作品制作を始めるにあたっての基礎的な知識を得る。
2	粘土の調整	○授業目標を踏まえて作品制作の準備をする。 ・粘土を購入する。 ※粘土は信楽白土と信楽赤土を使用。 ・粘土を練る。特に“菊練り”は成形のための必修技術であるので、充分練習する。
3	土笛	○3回～10回の授業では、やきもの制作の基本技法から順次段階を追ってレベルの高い技法を習得する。 ①形技法 ②装飾技法 ③制作上の主な留意点として記載する。 ・土笛の制作では土の性質を知り、土に慣れることを目標とする。 ①手びねり ②彩色 ③構造をよく理解
4	湯のみ	・やきもの制作の入門課題として基本的な技術を学ぶ。 ①紐造り、輪積み ②面取り、白化粧 ③粘土の紐と紐との接着を確実に行う。 ・高台削りのタイミングに注意 ※1～2日自然乾燥させた後、ポリ袋に入れ保管し削り作業ができるようにする。
5	茶碗、鉢	①紐造り、輪積み ②印花、刷毛目、黒搔き落とし ③高台削りのタイミングに注意する。 ※前回の授業と同じ処理をする。 ・粘土の厚さ、持ちやすいか。印花の押し方、化粧土の落とし方などの方法を覚える。
6	茶碗、鉢	・前回の授業と同課題であるが、より一層の技術向上を目指す。
7	筆立て、花生け	・前回までとは異なる制作技法を試みる。 ①板造り、芯型成形 ②布目、クギ描き、櫛目 ③タタラ板のドベ接着を確実に行う。 ・芯型（塩ビパイプ、発砲スチロール等）の扱い方を工夫する。
8	花瓶、花生け	・8～10回は、石膏型を使った作品の制作である。造形的な面白さを追求する。 ①石膏型成形 ②白化粧、鉄絵付け ・粘土原型は2ツ割りが可能な原型とする。 ・石膏型の制作工程を理解する。
9	花瓶、花生け	・前回の授業を継続する。 ・前の時に制作した粘土原型を石膏雌型に取る。 ※石膏は充分乾燥させておく。
10	花瓶、花生け	・前回の授業を継続する。 ・石膏型に粘土を張り込んで作品を作る。 ※完成した作品は充分乾燥させておく。
11	素焼き	・素焼きの目的と方法をよく理解して作業をする。窯づめでは窯内部が均一に昇温するように工夫する。 ※電気窯で焼成（16時間）・800度
12	下絵付け施釉	・下絵付けや釉をかける目的を理解して作業をする。 ①絵付け（鉄絵） ②釉薬の調整をする（フルイを通して粒子を一定にする） ③釉をかける（浸しがけ、流しがけ）※施釉道具（筆、ひしゃく他） ※釉（土灰透明釉、ワラ白釉、黒釉を使用）
13	本焼き	・作品どうしがつかないように注意して窯づめ作業をし、電気窯で焼成する。 ※焼成は22時間・1230℃～1260℃である。焼成後はそのまま放置し、自然に下がるのを待つ。（3日間）
14	窯出し	・窯出し。作品完成。作品を窯から出し、高台を砥石などで丁寧に擦って平滑にし完成。
15	作品鑑賞	・完成した作品を鑑賞する。また、陶芸家の作品や工房、作品制作の様子等をビデオで鑑賞し、やきものへの関心、興味を更に大きくする。

科目名	陶芸Ⅱ	対象 単位数 必選	短期大学部 生活芸術科 2年 2単位 選択
担当教員	佐竹 敦夫		
開講期	Ⅳ		
授業概要	陶芸Ⅰで習得した基本的な成形技法を応用、発展させると共に、更に高度な技法も経験し、個性的な作品が制作できるようにする。また、素焼き、釉薬かけ、本焼きの作業も経験する。		
達成目標	作品を作り、そして自ら使用することで生活とやきものとの関わりを考え、環境を美的に、生活を豊かにしていく態度や創造的な姿勢をつくる。		
受講資格	生活芸術科2年	成績評価 方法	①制作態度30% ②提出作品 40% ③レポート30% とする。
教科書	教科書はなし。陶芸関係図書、図録は適宜紹介する。美術館・博物館にも足を運んで、作品に触れる機会を持つこと。		
参考書	特に指定しない。		
学生への要望	やきものに関心を持ち、美しいもの、使いやすいものを鑑賞したり、使ったりするように心掛ける。		
オフィスタイム	火曜3・4限のNo.2生芸研究室など。		
自学自習	授業内で学んだことを自分のものとしてできるよう事後学習を2時間程度行ってください。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	陶芸Ⅱの授業について	・陶芸Ⅱの履修及び授業計画について説明する。・日本のやきものについて概説し、身近なやきものについて関心を持つことで授業への円滑な導入を図る。
2	粘土の調整	○授業目標を踏まえて作品制作の準備をする。・粘土を購入する。 ※粘土は信楽白土と信楽赤土を使用。・粘土を練る。陶芸Ⅰで練習したように“菊練り”は成形のための必修技術であるので確実に覚える。
3	陶箱	○3回～11回の授業では、各制作課題について技術的修練を積み重ねることで制作意図を的確に表すことができるようにする。①紐造り、輪積み ②象嵌(白・黒)③陶箱の蓋の他のかみ合わせの作り方を理解する。ポリ袋に入れ保管する。
4	陶箱	○3回～11回の授業では、各制作課題について技術的修練を積み重ねることで制作意図を的確に表すことができるようにする。①紐造り、輪積み ②象嵌(白・黒)③陶箱の蓋の他のかみ合わせの作り方を理解する。ポリ袋に入れ保管する。
5	一輪挿し、陶小物入れ等	・手びねりでは造形的な追求をし、手廻しロクロ成形では応用課題としてつくる。①手びねり、手廻しロクロ成形では応用課題。②作品に応じ、縄目、クシ目、浮き彫りなどで装飾。③「入れもの」という条件のもとで、いろいろなフォルムを考える。袋物成形の技法を試す。
6	一輪挿し、陶小物入れ等	・手びねりでは造形的な追求をし、手廻しロクロ成形では応用課題としてつくる。①手びねり、手廻しロクロ成形では応用課題。②作品に応じ、縄目、クシ目、浮き彫りなどで装飾。③「入れもの」という条件のもとで、いろいろなフォルムを考える。袋物成形の技法を試す。
7	一輪挿し、陶小物入れ等	・手びねりでは造形的な追求をし、手廻しロクロ成形では応用課題としてつくる。①手びねり、手廻しロクロ成形では応用課題。②作品に応じ、縄目、クシ目、浮き彫りなどで装飾。③「入れもの」という条件のもとで、いろいろなフォルムを考える。袋物成形の技法を試す。
8	自由制作	・これまで学んだ技法を使い、個性ある作品を作る。①作品に応じた技法で壺、花瓶、皿などを作る(輪積み、たたき、板づくり他) ※電動ロクロの練習(粘土の調整、水引き、道具の使い方について説明する) ②作品に応じて装飾する。③制作の目標を確認して計画的に仕事を進める。
9	自由制作	・これまで学んだ技法を使い、個性ある作品を作る。①作品に応じた技法で壺、花瓶、皿などを作る(輪積み、たたき、板づくり他) ※電動ロクロの練習(粘土の調整、水引き、道具の使い方について説明する) ②作品に応じて装飾する。③制作の目標を確認して計画的に仕事を進める。
10	自由制作	・これまで学んだ技法を使い、個性ある作品を作る。①作品に応じた技法で壺、花瓶、皿などを作る(輪積み、たたき、板づくり他) ※電動ロクロの練習(粘土の調整、水引き、道具の使い方について説明する) ②作品に応じて装飾する。③制作の目標を確認して計画的に仕事を進める。
11	自由制作	・これまで学んだ技法を使い、個性ある作品を作る。①作品に応じた技法で壺、花瓶、皿などを作る(輪積み、たたき、板づくり他) ※電動ロクロの練習(粘土の調整、水引き、道具の使い方について説明する) ②作品に応じて装飾する。③制作の目標を確認して計画的に仕事を進める。
12	素焼き	・素焼き焼成の目的と方法をよく理解して作業をする。作品の詰め方を工夫する。※電気窯で焼成(12時間・800度)
13	下絵付け、施釉	・釉薬をかける目的を理解して、釉かけの技法を試みる。釉薬を調整(フルイを通して粒子を一定にする)し、釉をかける(浸しがけ、流しがけ)。※施釉道具(筆、ヒシヤク、釉バサミ、フルイ他) ※釉は土灰、ワラ灰釉、黒釉他を使用。
14	本焼き	・本焼き焼成と素焼き焼成との違いを理解して作業する。作品どうしがつかないよう注意する。 ※電気窯で酸化焼成(酸素を多くした完全燃焼の焼成/22時間・1230度) ※自然に下がるのを待つ。
15	窯出し	・窯出し。作品完成。 作品を窯から出し、高台の底を砥石で擦って平滑にして完成。お互いの作品を鑑賞し、授業目的が達成されたか確認する。

科目名	彫金 I	対象 単位数 必選	短期大学部 生活芸術科 2年 2単位 選択
担当教員	矢吹 耿, 松田 理香		
開講期	Ⅲ		
授業概要	工芸分野の中でも金属を素材として扱う分野を金属工芸（金工）といいます。「彫金（ちょうきん）」は、「鑄造（ちゅうぞう）」「鍛金（たんきん）」などと同様、金工のテクニックの一つであり、金属を彫って模様をつけたり、象嵌（ぞうがん）などで飾りを施したりしながら金属を造形していく技法です。「彫金 I」では、糸鋸やヤスリ、バーナーなどの基本工具の使い方を学びながら、銀（Ag950）を加工して透かしのブローチやペンダントトップを制作します。		
達成目標	概説「日本の金工」制作を通し素材（金属）を理解し、デザインのみならず気を取られることなく、基本的な技術を習得することを目的とする。		
受講資格	生活芸術科 2年生	成績評価 方法	この授業の理解度が7～8割に達したことを前提に、①提出作品（80%）②制作意欲と態度（20%）を、総合的に判断する。
教科書	各種技法書・作品図録		
参考書	作家作品集・図鑑 他		
学生への要望	作品への関心を持ち約束を守る。展覧会・商品展示物などの鑑賞を日頃から心掛ける。		
オフィスタイム	火曜3・4限のNo.1生芸研究室など。		
自学自習	授業内で学んだことを自分のものとしてできるよう事後学習を2時間程度行ってください。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	ガイダンス	・「金工」のテクニック ・作品制作課題について（参考作品の鑑賞） 【備考】・毎授業の制作過程を各自のノートに記録し、自己評価・感想を書く。・制作がすすんだ者から次の課題の準備に入る。【注意等】・慣れない工具やガスを使用するので、指示に従い怪我や事故に合わないよう注意して作業する。汚れてもよい服装・靴で臨み長い髪はまとめる。
2	課題 I 「透かし」	透かしのブローチ・ペンダント 他（プリント配布） ・使用する用材 銀の平板（70×70×0.8mm厚）※材料代10,000円程度（銀板・丸線・糸鋸代など） ・テーマの設定 自然物や伝統工芸からの応用 1. 制作準備 ①図案制作デザイン ②デザインを薄紙に転写する。 ③銀板にのりをつけて貼る。 8. 制作手順 ①センターポンチで切り抜き部分に印をつける。 ②ドリルで糸鋸を通すための穴を開ける。 ③刻印を打つ。 ④糸鋸でデザインの線の上を丁寧に切り抜く。 ⑤糸鋸目をヤスリで平らにし、形を整える。 ⑥ブローチピンをロウ付けし、硫酸につける。 ⑦水洗いをよく行い、磨きヘラ・磨き棒で丁寧に磨く。（金属が硬化し作品が光るようになる） 3. 仕上げ ①ツヤ出し（ウエノール）②いぶし銀（古美）③メッキ（ロジウム）
3	課題 I 「透かし」	透かしのブローチ・ペンダント 他（プリント配布） ・使用する用材 銀の平板（70×70×0.8mm厚）※材料代10,000円程度（銀板・丸線・糸鋸代など） ・テーマの設定 自然物や伝統工芸からの応用 1. 制作準備 ①図案制作デザイン ②デザインを薄紙に転写する。 ③銀板にのりをつけて貼る。 8. 制作手順 ①センターポンチで切り抜き部分に印をつける。 ②ドリルで糸鋸を通すための穴を開ける。 ③刻印を打つ。 ④糸鋸でデザインの線の上を丁寧に切り抜く。 ⑤糸鋸目をヤスリで平らにし、形を整える。 ⑥ブローチピンをロウ付けし、硫酸につける。 ⑦水洗いをよく行い、磨きヘラ・磨き棒で丁寧に磨く。（金属が硬化し作品が光るようになる） 3. 仕上げ ①ツヤ出し（ウエノール）②いぶし銀（古美）③メッキ（ロジウム）
4	課題 I 「透かし」	透かしのブローチ・ペンダント 他（プリント配布） ・使用する用材 銀の平板（70×70×0.8mm厚）※材料代10,000円程度（銀板・丸線・糸鋸代など） ・テーマの設定 自然物や伝統工芸からの応用 1. 制作準備 ①図案制作デザイン ②デザインを薄紙に転写する。 ③銀板にのりをつけて貼る。 8. 制作手順 ①センターポンチで切り抜き部分に印をつける。 ②ドリルで糸鋸を通すための穴を開ける。 ③刻印を打つ。 ④糸鋸でデザインの線の上を丁寧に切り抜く。 ⑤糸鋸目をヤスリで平らにし、形を整える。 ⑥ブローチピンをロウ付けし、硫酸につける。 ⑦水洗いをよく行い、磨きヘラ・磨き棒で丁寧に磨く。（金属が硬化し作品が光るようになる） 3. 仕上げ ①ツヤ出し（ウエノール）②いぶし銀（古美）③メッキ（ロジウム）
5	課題 I 「透かし」	透かしのブローチ・ペンダント 他（プリント配布） ・使用する用材 銀の平板（70×70×0.8mm厚）※材料代10,000円程度（銀板・丸線・糸鋸代など） ・テーマの設定 自然物や伝統工芸からの応用 1. 制作準備 ①図案制作デザイン ②デザインを薄紙に転写する。 ③銀板にのりをつけて貼る。 8. 制作手順 ①センターポンチで切り抜き部分に印をつける。 ②ドリルで糸鋸を通すための穴を開ける。 ③刻印を打つ。 ④糸鋸でデザインの線の上を丁寧に切り抜く。 ⑤糸鋸目をヤスリで平らにし、形を整える。 ⑥ブローチピンをロウ付けし、硫酸につける。 ⑦水洗いをよく行い、磨きヘラ・磨き棒で丁寧に磨く。（金属が硬化し作品が光るようになる） 3. 仕上げ ①ツヤ出し（ウエノール）②いぶし銀（古美）③メッキ（ロジウム）
6	課題 I 「透かし」	透かしのブローチ・ペンダント 他（プリント配布） ・使用する用材 銀の平板（70×70×0.8mm厚）※材料代10,000円程度（銀板・丸線・糸鋸代など） ・テーマの設定 自然物や伝統工芸からの応用 1. 制作準備 ①図案制作デザイン ②デザインを薄紙に転写する。 ③銀板にのりをつけて貼る。 8. 制作手順 ①センターポンチで切り抜き部分に印をつける。 ②ドリルで糸鋸を通すための穴を開ける。 ③刻印を打つ。 ④糸鋸でデザインの線の上を丁寧に切り抜く。 ⑤糸鋸目をヤスリで平らにし、形を整える。 ⑥ブローチピンをロウ付けし、硫酸につける。 ⑦水洗いをよく行い、磨きヘラ・磨き棒で丁寧に磨く。（金属が硬化し作品が光るようになる） 3. 仕上げ ①ツヤ出し（ウエノール）②いぶし銀（古美）③メッキ（ロジウム）

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
7	課題Ⅰ「透かし」	透かしのブローチ・ペンダント 他 (プリント配布) ・使用する用材 銀の平板 (70×70×0.8mm厚) ※材料代10,000円程度 (銀板・丸線・糸鋸代など) ・テーマの設定 自然物や伝統工芸からの応用 1. 制作準備 ①図案制作デザイン ②デザインを薄紙に転写する。 ③銀板にのりをつけて貼る。 8. 制作手順 ①センターポンチで切り抜き部分に印をつける。 ②ドリルで糸鋸を通すための穴を開ける。 ③刻印を打つ。 ④糸鋸でデザインの線の上を丁寧に切り抜く。 ⑤糸鋸目をヤスリで平らにし、形を整える。 ⑥ブローチピンをロウ付けし、硫酸につける。 ⑦水洗いをよく行い、磨きヘラ・磨き棒で丁寧に磨く。(金属が硬化し作品が光るようになる) 3. 仕上げ ①ツヤ出し (ウエノール) ②いぶし銀 (古美) ③メッキ (ロジウム)
8	課題Ⅰ「透かし」	透かしのブローチ・ペンダント 他 (プリント配布) ・使用する用材 銀の平板 (70×70×0.8mm厚) ※材料代10,000円程度 (銀板・丸線・糸鋸代など) ・テーマの設定 自然物や伝統工芸からの応用 1. 制作準備 ①図案制作デザイン ②デザインを薄紙に転写する。 ③銀板にのりをつけて貼る。 8. 制作手順 ①センターポンチで切り抜き部分に印をつける。 ②ドリルで糸鋸を通すための穴を開ける。 ③刻印を打つ。 ④糸鋸でデザインの線の上を丁寧に切り抜く。 ⑤糸鋸目をヤスリで平らにし、形を整える。 ⑥ブローチピンをロウ付けし、硫酸につける。 ⑦水洗いをよく行い、磨きヘラ・磨き棒で丁寧に磨く。(金属が硬化し作品が光るようになる) 3. 仕上げ ①ツヤ出し (ウエノール) ②いぶし銀 (古美) ③メッキ (ロジウム)
9	課題Ⅱ「すり出し」	すり出しペンダント 他 (プリント配布) ・使用する用材 銀の平板 (20×20×2.0mm厚) ・丸線 (太さ0.1~0.25) ・テーマの設定 花・葉などの植物 ・デザインの展開と作図 ◎制作準備・仕上げは課題Ⅰに同じ 1. 制作手順 ①ヤスリで凹凸をつけ、立体感を表現するよう整形する。②パチカンをつける。③表面の仕上げを考える。(ヤスリ目をつける、荒らす 他)
10	課題Ⅱ「すり出し」	すり出しペンダント 他 (プリント配布) ・使用する用材 銀の平板 (20×20×2.0mm厚) ・丸線 (太さ0.1~0.25) ・テーマの設定 花・葉などの植物 ・デザインの展開と作図 ◎制作準備・仕上げは課題Ⅰに同じ 2. 制作手順 ①ヤスリで凹凸をつけ、立体感を表現するよう整形する。②パチカンをつける。③表面の仕上げを考える。(ヤスリ目をつける、荒らす 他)
11	課題Ⅱ「すり出し」	すり出しペンダント 他 (プリント配布) ・使用する用材 銀の平板 (20×20×2.0mm厚) ・丸線 (太さ0.1~0.25) ・テーマの設定 花・葉などの植物 ・デザインの展開と作図 ◎制作準備・仕上げは課題Ⅰに同じ 3. 制作手順 ①ヤスリで凹凸をつけ、立体感を表現するよう整形する。②パチカンをつける。③表面の仕上げを考える。(ヤスリ目をつける、荒らす 他)
12	課題Ⅱ「すり出し」	すり出しペンダント 他 (プリント配布) ・使用する用材 銀の平板 (20×20×2.0mm厚) ・丸線 (太さ0.1~0.25) ・テーマの設定 花・葉などの植物 ・デザインの展開と作図 ◎制作準備・仕上げは課題Ⅰに同じ 4. 制作手順 ①ヤスリで凹凸をつけ、立体感を表現するよう整形する。②パチカンをつける。③表面の仕上げを考える。(ヤスリ目をつける、荒らす 他)
13	課題Ⅲ「鎖」	鎖 他 (プリント配布) ・使用する用材 銀の丸線 (太さ1~3mm他) ・丸糸 (太さ0.1~0.25) ・デザインの展開 (鎖の種類とサイズを確認) ・制作手順・仕上げは、課題Ⅰ・課題Ⅱでの作業を応用する。
14	課題Ⅲ「鎖」	鎖 他 (プリント配布) ・使用する用材 銀の丸線 (太さ1~3mm他) ・丸糸 (太さ0.1~0.26) ・デザインの展開 (鎖の種類とサイズを確認) ・制作手順・仕上げは、課題Ⅰ・課題Ⅱでの作業を応用する。
15	講評会	作品の合評会・各自の反省 総評

科目名	彫金Ⅱ	対象 単位数 必選	短期大学部 生活芸術科 2年 2単位 選択
担当教員	矢吹 耿, 松田 理香		
開講期	Ⅳ		
授業概要	彫金Ⅰで学んだ技術や知識をもとに、すり出し指輪やチェーンなどを制作します。また、宝石を象嵌したり、薬品を利用していぶし銀に仕上げるなど、さまざまな金属加工の技術を体験します。		
達成目標	概説「日本の金工」制作を通し素材（金属）を理解し、デザインのみに気を取られることなく、基本的な技術を習得することを目的とする。		
受講資格	生活芸術科 2年生	成績評価 方法	この授業の理解度が7～8割に達したことを前提に、 ①提出作品（80%）②制作意欲と態度（20%）を、 総合的に判断する。
教科書	各種技法書・作品図録作家作品集・図鑑 他		
参考書	特に指定しない。		
学生への要望	作品への関心を持ち約束を守る。展覧会・商品展示物などの鑑賞を日頃から心掛ける。		
オフィスタイム	火曜3・4限のNo.1生芸研究室など。		
自学自習	授業内で学んだことを自分のものとしてできるよう事後学習を2時間程度行ってください。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	ガイダンス	・作品制作課題について（参考作品の鑑賞）【備考】・毎授業の制作過程を各自のノートに記録し、自己評価・感想を書く。・制作がすすんだ者から次の課題の準備に入る。【注意等】・慣れない工具やガスを使用するので、指示に従い怪我や事故に合わないよう注意して作業する。汚れてもよい服装・靴で臨み長い髪はまとめる。
2	課題Ⅰ「すり出し指輪」	すり出し指輪（プリント配布） ※すり出し指輪：ヤスリで立体感を出しながら削り出す方法で制作する。・使用する用材 銀の平板（0.2mm厚） ※材料代3,000円程度（銀板・丸線代など） ・テーマの設定 自由（具象表現・抽象表現 他） 1. 制作準備 ①リングのサイズを決める。（プリント参照）◎長さ＝（内径＋板の厚さ）×3.14 ※内径は自分の指輪のサイズ ※注：板の幅が1cmを超えるときは自分のサイズより一つ大きいサイズにする。 ②デザインを決める。造形性・機能性を追求する。作図の正確さを心掛ける。 2. 制作手順 ※慣れない工具やガスを使用するので、指示に従い怪我や事故に合わないよう注意して作業する。汚れてもよい服装・靴で臨み長い髪はまとめる。 ①サイズに切った平板をなます。 ②切り口が直角になるようヤスリで削る。 ③金床の上に平板を置き、刻印を打つ。（両端のどちらか4分の1の位置に、1回で打ちつける。） ④刻印を内側にしてヤットコで曲げ込む。 ⑤切り口面を隙間なく合わせ、ロウ付けをする。 ⑥芯金棒に入れて丸くする。（叩きすぎないこと） ⑦デザインをリングに写し取る。 ⑧ヤスリで削りながら制作する。（荒目～油目） ⑨ペーパーをかけて炭研ぎし、ヘラがけで仕上げる。 3. 仕上げ ①ツヤ出し（ウエノール） ②いぶし銀（古美）※エチルアルコール500cc+塩化金1g 及び ヨードチンキ ③メッキ（ロジュウム） ④その他
3	課題Ⅰ「すり出し指輪」	すり出し指輪（プリント配布） ※すり出し指輪：ヤスリで立体感を出しながら削り出す方法で制作する。・使用する用材 銀の平板（0.2mm厚） ※材料代3,000円程度（銀板・丸線代など） ・テーマの設定 自由（具象表現・抽象表現 他） 1. 制作準備 ①リングのサイズを決める。（プリント参照）◎長さ＝（内径＋板の厚さ）×3.14 ※内径は自分の指輪のサイズ ※注：板の幅が1cmを超えるときは自分のサイズより一つ大きいサイズにする。 ②デザインを決める。造形性・機能性を追求する。作図の正確さを心掛ける。 2. 制作手順 ※慣れない工具やガスを使用するので、指示に従い怪我や事故に合わないよう注意して作業する。汚れてもよい服装・靴で臨み長い髪はまとめる。 ①サイズに切った平板をなます。 ②切り口が直角になるようヤスリで削る。 ③金床の上に平板を置き、刻印を打つ。（両端のどちらか4分の1の位置に、1回で打ちつける。） ④刻印を内側にしてヤットコで曲げ込む。 ⑤切り口面を隙間なく合わせ、ロウ付けをする。 ⑥芯金棒に入れて丸くする。（叩きすぎないこと） ⑦デザインをリングに写し取る。 ⑧ヤスリで削りながら制作する。（荒目～油目） ⑨ペーパーをかけて炭研ぎし、ヘラがけで仕上げる。 3. 仕上げ ①ツヤ出し（ウエノール） ②いぶし銀（古美）※エチルアルコール500cc+塩化金1g 及び ヨードチンキ ③メッキ（ロジュウム） ④その他
4	課題Ⅰ「すり出し指輪」	すり出し指輪（プリント配布） ※すり出し指輪：ヤスリで立体感を出しながら削り出す方法で制作する。・使用する用材 銀の平板（0.2mm厚） ※材料代3,000円程度（銀板・丸線代など） ・テーマの設定 自由（具象表現・抽象表現 他） 1. 制作準備 ①リングのサイズを決める。（プリント参照）◎長さ＝（内径＋板の厚さ）×3.14 ※内径は自分の指輪のサイズ ※注：板の幅が1cmを超えるときは自分のサイズより一つ大きいサイズにする。 ②デザインを決める。造形性・機能性を追求する。作図の正確さを心掛ける。 2. 制作手順 ※慣れない工具やガスを使用するので、指示に従い怪我や事故に合わないよう注意して作業する。汚れてもよい服装・靴で臨み長い髪はまとめる。 ①サイズに切った平板をなます。 ②切り口が直角になるようヤスリで削る。 ③金床の上に平板を置き、刻印を打つ。（両端のどちらか4分の1の位置に、1回で打ちつける。） ④刻印を内側にしてヤットコで曲げ込む。 ⑤切り口面を隙間なく合わせ、ロウ付けをする。 ⑥芯金棒に入れて丸くする。（叩きすぎないこと） ⑦デザインをリングに写し取る。 ⑧ヤスリで削りながら制作する。（荒目～油目） ⑨ペーパーをかけて炭研ぎし、ヘラがけで仕上げる。 3. 仕上げ ①ツヤ出し（ウエノール） ②いぶし銀（古美）※エチルアルコール500cc+塩化金1g 及び ヨードチンキ ③メッキ（ロジュウム） ④その他

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
5	課題Ⅰ「すり出し指輪」	<p>すり出し指輪（プリント配布） ※すり出し指輪：ヤスリで立体感を出しながら削り出す方法で制作する。 ・使用する用材 銀の平板（0.2mm厚） ※材料代3,000円程度（銀板・丸線代など） ・テーマの設定 自由（具象表現・抽象表現 他） 1. 制作準備 ①リングのサイズを決める。（プリント参照）◎長さ＝（内径＋板の厚さ）×3.14 ※内径は自分の指輪のサイズ ※注：板の幅が1cmを超えるときは自分のサイズより一つ大きいサイズにする。 ②デザインを決める。造形性・機能性を追求する。作図の正確さを心掛ける。 2. 制作手順 ※慣れない工具やガスを使用するので、指示に従い怪我や事故に合わないよう注意して作業する。汚れてもよい服装・靴で臨み長い髪はまとめる。 ①サイズに切った平板をなます。 ②切り口が直角になるようヤスリで削る。 ③金床の上に平板を置き、刻印を打つ。（両端のどちらか4分の1の位置に、1回で打ちつける。） ④刻印を内側にしてヤットコで曲げ込む。 ⑤切り口面を隙間なく合わせ、ロウ付けをする。 ⑥芯金棒に入れて丸くする。（叩きすぎないこと） ⑦デザインをリングに写し取る。 ⑧ヤスリで削りながら制作する。（荒目～油目） ⑨ペーパーをかけて炭研ぎし、ヘラがけで仕上げる。 3. 仕上げ ①ツヤ出し（ウエノール） ②いぶし銀（古美）※エチルアルコール500cc+塩化金1g 及び ヨードチンキ ③メッキ（ロジュウム） ④その他</p>
6	課題Ⅰ「すり出し指輪」	<p>すり出し指輪（プリント配布） ※すり出し指輪：ヤスリで立体感を出しながら削り出す方法で制作する。 ・使用する用材 銀の平板（0.2mm厚） ※材料代3,000円程度（銀板・丸線代など） ・テーマの設定 自由（具象表現・抽象表現 他） 1. 制作準備 ①リングのサイズを決める。（プリント参照）◎長さ＝（内径＋板の厚さ）×3.14 ※内径は自分の指輪のサイズ ※注：板の幅が1cmを超えるときは自分のサイズより一つ大きいサイズにする。 ②デザインを決める。造形性・機能性を追求する。作図の正確さを心掛ける。 2. 制作手順 ※慣れない工具やガスを使用するので、指示に従い怪我や事故に合わないよう注意して作業する。汚れてもよい服装・靴で臨み長い髪はまとめる。 ①サイズに切った平板をなます。 ②切り口が直角になるようヤスリで削る。 ③金床の上に平板を置き、刻印を打つ。（両端のどちらか4分の1の位置に、1回で打ちつける。） ④刻印を内側にしてヤットコで曲げ込む。 ⑤切り口面を隙間なく合わせ、ロウ付けをする。 ⑥芯金棒に入れて丸くする。（叩きすぎないこと） ⑦デザインをリングに写し取る。 ⑧ヤスリで削りながら制作する。（荒目～油目） ⑨ペーパーをかけて炭研ぎし、ヘラがけで仕上げる。 3. 仕上げ ①ツヤ出し（ウエノール） ②いぶし銀（古美）※エチルアルコール500cc+塩化金1g 及び ヨードチンキ ③メッキ（ロジュウム） ④その他</p>
7	課題Ⅰ「すり出し指輪」	<p>すり出し指輪（プリント配布） ※すり出し指輪：ヤスリで立体感を出しながら削り出す方法で制作する。 ・使用する用材 銀の平板（0.2mm厚） ※材料代3,000円程度（銀板・丸線代など） ・テーマの設定 自由（具象表現・抽象表現 他） 1. 制作準備 ①リングのサイズを決める。（プリント参照）◎長さ＝（内径＋板の厚さ）×3.14 ※内径は自分の指輪のサイズ ※注：板の幅が1cmを超えるときは自分のサイズより一つ大きいサイズにする。 ②デザインを決める。造形性・機能性を追求する。作図の正確さを心掛ける。 2. 制作手順 ※慣れない工具やガスを使用するので、指示に従い怪我や事故に合わないよう注意して作業する。汚れてもよい服装・靴で臨み長い髪はまとめる。 ①サイズに切った平板をなます。 ②切り口が直角になるようヤスリで削る。 ③金床の上に平板を置き、刻印を打つ。（両端のどちらか4分の1の位置に、1回で打ちつける。） ④刻印を内側にしてヤットコで曲げ込む。 ⑤切り口面を隙間なく合わせ、ロウ付けをする。 ⑥芯金棒に入れて丸くする。（叩きすぎないこと） ⑦デザインをリングに写し取る。 ⑧ヤスリで削りながら制作する。（荒目～油目） ⑨ペーパーをかけて炭研ぎし、ヘラがけで仕上げる。 3. 仕上げ ①ツヤ出し（ウエノール） ②いぶし銀（古美）※エチルアルコール500cc+塩化金1g 及び ヨードチンキ ③メッキ（ロジュウム） ④その他</p>
8	課題Ⅰ「すり出し指輪」	<p>すり出し指輪（プリント配布） ※すり出し指輪：ヤスリで立体感を出しながら削り出す方法で制作する。 ・使用する用材 銀の平板（0.2mm厚） ※材料代3,000円程度（銀板・丸線代など） ・テーマの設定 自由（具象表現・抽象表現 他） 1. 制作準備 ①リングのサイズを決める。（プリント参照）◎長さ＝（内径＋板の厚さ）×3.14 ※内径は自分の指輪のサイズ ※注：板の幅が1cmを超えるときは自分のサイズより一つ大きいサイズにする。 ②デザインを決める。造形性・機能性を追求する。作図の正確さを心掛ける。 2. 制作手順 ※慣れない工具やガスを使用するので、指示に従い怪我や事故に合わないよう注意して作業する。汚れてもよい服装・靴で臨み長い髪はまとめる。 ①サイズに切った平板をなます。 ②切り口が直角になるようヤスリで削る。 ③金床の上に平板を置き、刻印を打つ。（両端のどちらか4分の1の位置に、1回で打ちつける。） ④刻印を内側にしてヤットコで曲げ込む。 ⑤切り口面を隙間なく合わせ、ロウ付けをする。 ⑥芯金棒に入れて丸くする。（叩きすぎないこと） ⑦デザインをリングに写し取る。 ⑧ヤスリで削りながら制作する。（荒目～油目） ⑨ペーパーをかけて炭研ぎし、ヘラがけで仕上げる。 3. 仕上げ ①ツヤ出し（ウエノール） ②いぶし銀（古美）※エチルアルコール500cc+塩化金1g 及び ヨードチンキ ③メッキ（ロジュウム） ④その他</p>

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
9	課題Ⅰ「すり出し指輪」	すり出し指輪（プリント配布） ※すり出し指輪：ヤスリで立体感を出しながら削り出す方法で制作する。 ・使用する用材 銀の平板（0.2mm厚） ※材料代3,000円程度（銀板・丸線代など） ・テーマの設定 自由（具象表現・抽象表現 他） 1. 制作準備 ①リングのサイズを決める。（プリント参照）◎長さ＝（内径＋板の厚さ）×3.14 ※内径は自分の指輪のサイズ ※注：板の幅が1cmを超えるときは自分のサイズより一つ大きいサイズにする。 ②デザインを決める。造形性・機能性を追求する。作図の正確さを心掛ける。 2. 制作手順 ※慣れない工具やガスを使用するので、指示に従い怪我や事故に合わないよう注意して作業する。汚れてもよい服装・靴で臨み長い髪はまとめる。 ①サイズに切った平板をなます。 ②切り口が直角になるようヤスリで削る。 ③金床の上に平板を置き、刻印を打つ。（両端のどちらか4分の1の位置に、1回で打ちつける。） ④刻印を内側にしてヤットコで曲げ込む。 ⑤切り口面を隙間なく合わせ、ロウ付けをする。 ⑥芯金棒に入れて丸くする。（叩きすぎないこと） ⑦デザインをリングに写し取る。 ⑧ヤスリで削りながら制作する。（荒目～油目） ⑨ペーパーをかけて炭研ぎし、ヘラがけで仕上げる。 3. 仕上げ ①ツヤ出し（ウエノール） ②いぶし銀（古美）※エチルアルコール500cc+塩化金1g 及び ヨードチンキ ③メッキ（ロジュウム） ④その他
10	課題Ⅰ「すり出し指輪」	すり出し指輪（プリント配布） ※すり出し指輪：ヤスリで立体感を出しながら削り出す方法で制作する。 ・使用する用材 銀の平板（0.2mm厚） ※材料代3,000円程度（銀板・丸線代など） ・テーマの設定 自由（具象表現・抽象表現 他） 1. 制作準備 ①リングのサイズを決める。（プリント参照）◎長さ＝（内径＋板の厚さ）×3.14 ※内径は自分の指輪のサイズ ※注：板の幅が1cmを超えるときは自分のサイズより一つ大きいサイズにする。 ②デザインを決める。造形性・機能性を追求する。作図の正確さを心掛ける。 2. 制作手順 ※慣れない工具やガスを使用するので、指示に従い怪我や事故に合わないよう注意して作業する。汚れてもよい服装・靴で臨み長い髪はまとめる。 ①サイズに切った平板をなます。 ②切り口が直角になるようヤスリで削る。 ③金床の上に平板を置き、刻印を打つ。（両端のどちらか4分の1の位置に、1回で打ちつける。） ④刻印を内側にしてヤットコで曲げ込む。 ⑤切り口面を隙間なく合わせ、ロウ付けをする。 ⑥芯金棒に入れて丸くする。（叩きすぎないこと） ⑦デザインをリングに写し取る。 ⑧ヤスリで削りながら制作する。（荒目～油目） ⑨ペーパーをかけて炭研ぎし、ヘラがけで仕上げる。 3. 仕上げ ①ツヤ出し（ウエノール） ②いぶし銀（古美）※エチルアルコール500cc+塩化金1g 及び ヨードチンキ ③メッキ（ロジュウム） ④その他
11	課題Ⅰ「すり出し指輪」	すり出し指輪（プリント配布） ※すり出し指輪：ヤスリで立体感を出しながら削り出す方法で制作する。 ・使用する用材 銀の平板（0.2mm厚） ※材料代3,000円程度（銀板・丸線代など） ・テーマの設定 自由（具象表現・抽象表現 他） 1. 制作準備 ①リングのサイズを決める。（プリント参照）◎長さ＝（内径＋板の厚さ）×3.14 ※内径は自分の指輪のサイズ ※注：板の幅が1cmを超えるときは自分のサイズより一つ大きいサイズにする。 ②デザインを決める。造形性・機能性を追求する。作図の正確さを心掛ける。 2. 制作手順 ※慣れない工具やガスを使用するので、指示に従い怪我や事故に合わないよう注意して作業する。汚れてもよい服装・靴で臨み長い髪はまとめる。 ①サイズに切った平板をなます。 ②切り口が直角になるようヤスリで削る。 ③金床の上に平板を置き、刻印を打つ。（両端のどちらか4分の1の位置に、1回で打ちつける。） ④刻印を内側にしてヤットコで曲げ込む。 ⑤切り口面を隙間なく合わせ、ロウ付けをする。 ⑥芯金棒に入れて丸くする。（叩きすぎないこと） ⑦デザインをリングに写し取る。 ⑧ヤスリで削りながら制作する。（荒目～油目） ⑨ペーパーをかけて炭研ぎし、ヘラがけで仕上げる。 3. 仕上げ ①ツヤ出し（ウエノール） ②いぶし銀（古美）※エチルアルコール500cc+塩化金1g 及び ヨードチンキ ③メッキ（ロジュウム） ④その他
12	課題Ⅱ	自由制作（平打ち ロウづけ）※板の上に、銀または板の切り抜きなどをロウづけする方法で制作する。 ※ブローチ・リング・ペンダント・イヤリング・ピアス・キーホルダーなど自由に制作する。 ・用材の残りを使用する。 ・板や丸線など用材の特性を生かして使用する方法を考えながらデザインする。
13	課題Ⅱ	自由制作（平打ち ロウづけ）※板の上に、銀または板の切り抜きなどをロウづけする方法で制作する。 ※ブローチ・リング・ペンダント・イヤリング・ピアス・キーホルダーなど自由に制作する。 ・用材の残りを使用する。 ・板や丸線など用材の特性を生かして使用する方法を考えながらデザインする。
14	課題Ⅱ	自由制作（平打ち ロウづけ）※板の上に、銀または板の切り抜きなどをロウづけする方法で制作する。 ※ブローチ・リング・ペンダント・イヤリング・ピアス・キーホルダーなど自由に制作する。 ・用材の残りを使用する。 ・板や丸線など用材の特性を生かして使用する方法を考えながらデザインする。
15	講評会	作品の合評会・各自の反省 総評

平成30年度

科目名	写真Ⅰ	対象 単位数 必選	短期大学部 生活芸術科 2年 2単位 選択
担当教員	山口 郁生		
開講期	Ⅲ		
授業概要	毎週の課題提出や撮影実習を通して、写真の基本的な教養と技術を学修します。		
達成目標	1. 写真の基本的な教養を身に付ける。2. 学生各自の研究領域に活かせる写真を、思い通りに撮影できるようになる。3. 作品の表現意図を客観的に説明できるようになる。学習のテーマは①想像力、②創造力、③説明力の鍛錬です。		
受講資格	生活芸術科2年	成績評価 方法	①実習作品40%(10×4) 、②課題提出 30%、③学習態度 30%
教科書	各種技法書・作品図録・作家作品集・図鑑 他 ■参考テキスト「写真130年史」田中雅夫著、ダヴィッド社、1970年初版。「現代写真・入門」飯沢耕太郎ほか著、JCI 出版局、1989年初版。「写真のキーワード ―技術・表現・歴史―」昭和堂、2001年初版。		
参考書	特に指定しない。		
学生への要望	撮影実習を含め、2コマ×30回の授業で内容が完結するように考えているので、前期・後期通しての受講が望ましい。次の週への影響が大きいので出来るだけ欠席しないこと。提出物は毎週欠かさないこと。		
オフィスタイム	水曜4・5限のNo.1生芸研		
自学自習	授業内で学んだことを自分のものとしてできるよう事後学習を2時間程度行ってください。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	ガイダンス／写真の定義	■何が写真なのかを考える。→各自の学習目的を考える。 ■お隣さんをスナップ撮影。1. デジタル一眼レフカメラ使い、隣席の友達をお互いに撮りあう。2. 撮影したデータにファイル名を付け、各自が保存する。
2	写真の歴史／カメラの種類と構造	■写真の歴史 1. 写真の発明から現在までを欧米と日本に分けて説明 ■カメラの種類と構造 1. カメラをサイズ別、用途別に説明 2. 実際にポラロイドフィルムを使用して撮影
3	撮影の基本、フィルムカメラによる撮影(1)	■撮影の基本について説明 1. 露出 2. ピント 3. レンズの焦点距離 4. さまざまな光(自然光と人工光) ■フィルムによる撮影 1. 35ミリサイズフィルムを使用して、学内の銅像を自然光で撮影
4	フィルムカメラによる撮影(2)	■フィルムのスキャナーによるパソコンへの取り込み 1. 取り込み→画像調整→出力
5	フィルムカメラによる撮影(3)	■フィルムのスキャナーによるパソコンへの取り込み 1. 取り込み→画像調整→出力
6	デジタルカメラによるスタジオ撮影(1)	■デジタルカメラを使用して石膏像をスタジオ撮影 1. デジタルカメラについて(NIKON D300sの使い方) 2. スタジオ大型ストロボの使い方
7	デジタルカメラによるスタジオ撮影(2)	■撮影データをパソコンに取り込み画像調整 1. PHOTOSHOP CS による画像調整 2. 写真プリンターによる出力
8	デジタルカメラによるスタジオ撮影(3)	■撮影データをパソコンに取り込み画像調整 1. PHOTOSHOP CS による画像調整 2. 写真プリンターによる出力
9	デジタルカメラによるスタジオ静物撮影(1)	■スタジオでスティルライフ撮影 1. 英語のSTILL-LIFEを直訳すると静止した命のことです。日本語の静物とは少しニュアンスが異なりますが、きちんとモチーフを選びそれぞれに真摯に向き合えば、命のない物にも命を吹き込むことができるかもしれません。静物撮影を作者の主張にまで昇華させるには研ぎ澄まされた感性と習熟した撮影技術が必要です。静物撮影の本質に迫りましょう。
10	デジタルカメラによるスタジオ静物撮影(2)	■スタジオでスティルライフ撮影 1. 学内にある雑貨、自己の所有物からモチーフを選ぶ。 2. 撮影を進めながら、PCによる画像チェック→出力
11	デジタルカメラによるスタジオ静物撮影(3)	■スタジオでスティルライフ撮影 1. 学内にある雑貨、自己の所有物からモチーフを選ぶ。 2. 撮影を進めながら、PCによる画像チェック→出力
12	現代写真家列伝(1)	■現在活躍中の写真家の中から特色のある作家を選び、作品と制作過程などを動画とスライドで学習します 1. 梅佳代、藤原新也、安達ロベルト etc.
13	現代写真家列伝(2)	■現在活躍中の写真家の中から特色のある作家を選び、作品と制作過程などを動画とスライドで学習します 1. 川内倫子、荒木経、志賀理江子 etc.
14	発表作品制作準備(1)	■もみじ会に向けて、発表できる作品を実習で撮影した写真の中から選び、作品展示の準備をします。
15	発表作品制作準備(2)	■もみじ会に向けて、発表できる作品を実習で撮影した写真の中から選び、作品展示の準備をします。

平成30年度

科目名	写真Ⅱ	対象 単位数 必選	短期大学部 生活芸術科 2年 2単位 選択
担当教員	山口 郁生		
開講期	Ⅳ		
授業概要	写真Ⅰの授業を踏まえ、撮影実習を中心に更に専門的な写真の教養や技術を学修します。		
達成目標	①Ⅲ期の授業を踏まえ、学生が自分自身でテーマを決定して、主体的に作品を制作する撮影実習を中心に授業を進めます。それに伴うPCによる画像調整の技術は必修です。 ②Ⅲ期に続き「現代写真家列伝」と称し、現代写真作家の作品を鑑賞して、その作品の背景にある哲学や技法を学習できる機会も増やしたいと思えます。		
受講資格	生活芸術科2年	成績評価 方法	①実習作品評価 40%(10×4)、②課題提出 30%、 ③学習態度 30%
教科書	各種技法書・作品図録		
参考書	特に指定しない。		
学生への要望	撮影実習を含め、2コマ×30回の授業で内容が完結するように考えているので、前期後期通しての受講が望ましい。次の週への影響が大きいので出来るだけ欠席しないこと。提出物は毎週欠かさないこと。		
オフィスタイム	水曜4・5限のNo.1生芸研究室		
自学自習	授業内で学んだことを自分のものとしてできるよう事後学習を2時間程度行ってください。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	もみじ会作品制作(1)	■もみじ会発表作品制作① 1. 前期に制作した作品の中から、もみじ会発表作品を決めプリントを仕上げます。
2	もみじ会作品制作(2)	■もみじ会発表作品制作② 1. プリントした作品を、パネルに貼り展示できるように仕上げます。
3	スナップ撮影実習(1)	■PICK-UP① 1. 写真の特質である「記録性」を生かし自分のテーマに従い、色々なモチーフをスナップ的に撮影収集(PICK-UP)します。 2. 収集した写真を、シーンクエンスを考えながらレイアウトすることにより、単なる記録写真が自分のテーマの表現につながることを学習します。
4	スナップ撮影実習(2)	■PICK-UP② 1. 画像処理 ⇒ 出力
5	スナップ撮影実習(3)	■PICK-UP③ 1. 仕上げ ⇒ 発表/合評/講評
6	スナップ撮影実習(4)	■PICK-UP① 1. 写真の特質である「記録性」を生かし自分のテーマに従い、色々なモチーフをスナップ的に撮影収集(PICK-UP)します。 2. 収集した写真を、シーンクエンスを考えながらレイアウトすることにより、単なる記録写真が自分のテーマの表現につながることを学習します。
7	スナップ撮影実習(5)	■PICK-UP② 1. 画像処理 ⇒ 出力 2. 仕上げ ⇒ 発表/合評/講評
8	スタジオ人物撮影実習(1)	■スタジオ人物撮影実習① 1. スタジオで大型ストロボを使いポートレート撮影実習。撮影の条件は特定の人物と静物とを組み合わせること。人物と静物を組み合わせることにより、人物の個性や撮影者の主張をより明確にできることを学習します。
9	スタジオ人物撮影実習(2)	■スタジオ人物撮影実習② 1. 撮影に不都合があれば再撮影 ⇒ 画像処理
10	スタジオ人物撮影実習(3)	■スタジオ人物撮影実習③ 1. 作品出力 ⇒ ボードに張り仕上げ 2. 作品発表/合評/講評
11	作家の作品鑑賞	■現代写真家列伝 藤原新也 / 荒木経惟 / ダイアン・アールパス / アルフレッド・ステイグリッツ
12	自主制作(1)	■撮影実習① 1. 1年間の集大成としての撮影実習です。これまでの実習で出来なかった事、より深めたいことを考え、最後の作品制作に取り組みます。
13	自主制作(2)	■撮影実習② 1. 撮影
14	自主制作(3)	■撮影実習③ 1. PC画像処理 ⇒ 出力
15	作品提出/講評会	■作品提出 1. 作品発表/合評/講評 2. ストックブック「気になるノート」の発表を含めた1年間の総括。

科目名	グラフィックデザインⅡ	対象 単位数 必選	短期大学部 生活芸術科 2年 2単位 選択
担当教員	斉藤 弘久		
開講期	Ⅲ		
授業概要	現実世界の中での自己と他者の関係を新たに見つめ直し、自身を表現するとともに他者や社会に、それらのことを円滑に伝達する必要があるだろう。基礎デザイン・グラフィックデザインⅠで学んだ事柄をさらに発展させて学習する。		
達成目標	現代におけるグラフィックデザインは、人間相互のコミュニケーションを円滑にするという役割において極めて重要な役割を担っている。このことを踏まえ、より良い人間生活のためのデザインを生み出すための考え方と技術を学ぶことを目標としている。		
受講資格	短期大学部生活芸術科2年生	成績評価 方法	次の項目を評価の観点とする。 ①提出作品の課題目標達成度が70%以上であること。 (配点80点) ②授業に対する関心・意欲・態度(20点)
教科書	なし		
参考書	適宜担当者が資料を配布する。		
学生への要望	よく考えて積極的に制作すること。		
オフィスタイム	授業に関する質問や相談は毎週金曜日を除く毎日空きコマにNo2. デザイン室で受けます。		
自学自習	資料を参考にしたり、自ら積極的に資料を集め研鑽を重ね表現に活かす。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	ガイダンス	グラフィックデザインⅡについて。授業計画の説明。 グラフィックデザインの公共性と役割について理解を深める。
2	イラストレーション 1	他者の記したエッセイを読み、その意図を効果的に伝達するための絵を制作する。画材は自由。単なる文章の説明ではなく、作者の意図を汲み取ること。
3	イラストレーション 2	前時で制作したイラストレーションを文章中に配置し、その効果を確かめる。学生の全作品を掲示し鑑賞する。学生は自分の作品について表現意図を説明し、教員は講評する。
4	立体イラストレーション1 [表現テーマの作成]	身の回りで起こる日常的で身近な事柄を素材にして、立体で表現し、さらにそれを撮影して平面作品化する。本時は素材を考え文章化しスケッチを添える。
5	立体イラストレーション2 [立体の形成]	紙粘土を材料として立体作品を制作する。写實的に物体を再現するというよりも、作られた物体が醸し出す空間に、それぞれの日常性が表れていること。
6	立体イラストレーション3 [彩色・撮影・画像処理]	乾燥した立体にアクリル絵の具で彩色する。 デジタルカメラで撮影しコンピュータ上で画像処理する。(Photoshop使用)
7	立体イラストレーション4 [出力・発表・講評]	短い文章(画像と互いに影響しあひ作品に奥行きを与える文章)を配置し出力する。作品発表会と講評をする。
8	ポスター制作 1 [制作にあたって]	学園行事「もみじ会」のポスターを制作し、グラフィックデザインの実践的な制作方法と技術を学ぶ。ポスターの歴史・機能について解説する。制作にあたり必要な「文字」・「ロゴタイプ・ロゴマーク」・「画像処理」を説明する。
9	ポスター制作 2 [アイデアスケッチ]	表現のためのアイデアを数多く(10種以上)スケッチしながら、表現テーマを探ってゆく。(紙に鉛筆)絵にできない事柄は文章で記述する。
10	ポスター制作 3 [素材の収集]	写真・イラストレーション・色面構成・文字による表現などの各自の表現テーマに基づいて資料を収集する。写真撮影はこの時点で行う。
11	ポスター制作 4 [素材の検討]	収集した素材を並べ検討する。イラストレーションを使用する場合は、ここで描画制作する。写真はPCで画像処理。(色調変更・切抜き・変形など)を行う。
12	ポスター制作 5 [レイアウト]	CG室でレイアウト作業を行う。B2サイズ(728×515mm)・画像解像度・文字のアウトライン化・トンボなどに注意。
13	ポスター制作 6 [レイアウト]	レイアウトを検討しながら制作をすすめる。ポスターを鑑賞する側の目で、文字の流れや伝達事項が無理なく配置されているか注意する。必要以上に多くの書体を使いすぎないこと。
14	ポスター制作 6 [出力]	大判プリンタで印刷する。 文字がアウトライン化されているか、トンボの確認。印刷後、額入れする。
15	発表会・講評会[まとめ]	完成したポスターについて各自が表現意図を発表、担当教員は講評をし、グラフィックデザインⅡのまとめとする。

平成30年度

科目名	グラフィックデザインⅢ	対象 単位数 必選	短期大学部 生活芸術科 2年 2単位 選択
担当教員	斉藤 弘久		
開講期	IV		
授業概要	グラフィックデザインⅢではCI（コーポレート・アイデンティティ）の考え方に沿って、デザイン活動を総体的に捉えていく。仮想のコーポレイトを設定し、必要なデザインをトータルに制作し部分と全体の関係考えながらグラフィックデザインの実際を学ぶ。		
達成目標	現代におけるグラフィックデザインは、人間相互のコミュニケーションを円滑にするという役割において重要な使命を担っている。このことを踏まえて、より良い人間生活のためのデザインを生み出すための考え方と技術を学ぶ事を目標としている。		
受講資格	生活芸術科2年生	成績評価 方法	次の項目を評価の観点とする。 ①提出作品の課題目標達成度が70%以上であること。 （配点80点） ②授業に対する関心・意欲・態度（20点）
教科書	そのつど担当者が作成した資料を配布する。		
参考書	そのつど指示する。		
学生への要望	主に社会における企業イメージを築くために計画・実行されるが、企業内においても意識の向上、また品質や生産性、人材の募集などに期待できるものである。また、マークやロゴは流行や時代性のみで追求して作られるのではなく、企業の掲げる理念などを視覚化したものであって独自性を持っていることが重要である。このようなことを踏まえてよく考えて積極的に制作してください。		
オフィスタイム	授業に関する質問や相談は毎週金曜日を除く毎日空きコマにNo2. デザイン室で受けます。		
自学自習	マークやロゴは20～30のアイデアを出すことを目標に、各自においても資料の準備をする。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	ガイダンス	・グラフィックデザインⅢについて授業計画の説明。 ・CIデザインの概略について説明する。
2	CIとは何か/ 仮想のコーポレイト設定	・CIデザインとブランディングについて説明する。 ・CIデザインを制作する対象としての共同体を考える。
3	コーポレイトカラーとマスコットキャラクター	・設定したコーポレイトの色彩を考える。 ・設定したコーポレイトのマスコットキャラクターを考える。
4	マスコットキャラクター2	・同 上
5	コーポレイトシンボルとロゴタイプ	・コーポレイトのシンボルマークとロゴタイプを考える。（アイディアスケッチ） ・マークとロゴタイプが同一の場合や、組み合わせて使用するものがある。
6	コーポレイトシンボルとロゴタイプⅡ	・スケッチをもとにPCで制作する。（Illustratorを使用）
7	コーポレイトシンボルとロゴタイプⅢ	・同 上
8	展開Ⅰ 名刺・封筒・便箋など	・本時までの成果を用いて、名刺・封筒・便箋などのデザインを制作する。
9	展開Ⅱ 旗・看板・ネオンなど	・本時までの成果を用いて、旗・看板・標識などのデザインを制作する。
10	展開Ⅲ パッケージなど	・本時までの成果を用いて、パッケージ・包装紙などのデザインを制作する。
11	展開Ⅳ ユニフォームなど	本時までの成果を用いて、ユニフォームなどのデザインを制作する。
12	展開Ⅴ 建築・環境など	・本時までの成果を用いて、社屋や周辺環境などのデザインを制作する。
13	CIS Tree	・これまで制作したデザインを系統図としてまとめる。
14	プレゼンテーション	・ポートフォリオを制作しプレゼンテーションする。
15	まとめ	・レポートを作成しながら、グラフィックデザインⅢで学んだことの復習とまとめをする。

科目名	CGアートⅢ	対象 単位数 必選	短期大学部 生活芸術科 2年 2単位 選択
担当教員	小松 太志		
開講期	Ⅲ		
授業概要	<p>【授業の目的・ねらい】</p> <p>①映像メディアを中心とした造形表現について理解する。 ②課題制作を通して、映像原理を理解する。 ③課題制作を通して、映像機器、映像編集ソフトウェアの操作方法を理解する。</p> <p>【授業全体の内容の概要】</p> <p>①フリップブック制作、ストップモーションアニメ制作、ドキュメンタリー映像制作の課題制作を通して、映像メディア表現の理解を深める。</p>		
達成目標	<p>①19世紀からの映像技術の歴史の概要を理解している。 ②造形要素としての「時間」、「運動」について理解して制作できる。 ③撮影機器と映像編集ソフトウェアの操作方法を習得している。</p>		
受講資格	<ul style="list-style-type: none"> 生活芸術科2年 対象 CGアート2を履修済みであることが望ましい。 	成績評価 方法	授業の総合的理解度が7割程度に達していることを基本として、以下の3つ観点で所定のルーブリックに基づき評価する。 ①課題作品の制作過程（40%） ②課題作品（40%） ③課題作品の提出状況（20%）
教科書	適宜、配布または提示する。		
参考書	適宜、提示する。		
学生への要望	<ul style="list-style-type: none"> 原則として、授業資料は再配布しない。授業を欠席して授業資料が受け取れなかった場合などは、出席者からコピーをさせてもらうなど各自対応すること。 欠席などで授業理解に遅れが生じた場合は、次の授業に支障をきたさないように事前学習を進めること。 当日に課題提出ができない場合は、事前に受け付ける。 		
オフィスタイム	火曜日 12:50~16:00 No.2生芸科研究室		
自学自習	事前学習：当日の授業内容をテキスト等で確認しておくこと（1時間以上） 事後学習：当日の授業内容に基づいて課題制作を進めること（1時間以上）		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	ガイダンス	● CGアートⅢの授業計画と授業目標について →過去の課題作品とともに授業計画、授業目標について説明します。
2	フリップブックの制作(1)	●フリップブックの制作 →課題説明、イメージスケッチからアイデア・コンセプトを検討し、絵コンテを作成します。 ●映像装置の歴史 →19世紀からの映像装置の変遷について解説します。
3	フリップブックの制作(2)	●フリップブックの制作 →イメージスケッチからアイデア・コンセプトを検討し、絵コンテを作成します。 ●映像装置の歴史 →19世紀からの映像装置の変遷について解説します。
4	フリップブックの制作(3)	●フリップブックの制作 →絵コンテをもとに、所定の用紙に連続的なイメージを描写します。
5	フリップブックの制作(4)	●フリップブックの制作 →絵コンテをもとに、連続的なイメージを描写します。
6	フリップブックの制作(5)	●フリップブックの制作 →印刷・（簡易）製本を実施します。
7	フリップブックの制作(6)	●フリップブックの制作 →印刷・製本を実施します。 →講評を実施します。
8	ストップモーションアニメの制作(1)	●ストップモーションアニメの制作 →課題説明 →絵コンテを作成します。
9	ストップモーションアニメの制作(2)	●ストップモーションアニメの制作 →課題説明 →絵コンテを作成します。 ●造形における「運動」と「時間」について →造形心理の視点から「運動」と「時間」について解説します。
10	ストップモーションアニメの制作(3)	●ストップモーションアニメの制作 →映像編集ソフトウェア（iMovie）の使用方法を学習します。 →絵コンテをもとに映像素材を収集、作成し、写真撮影を実施します。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
11	ストップモーションアニメの制作(4)	●ストップモーションアニメの制作 →映像編集ソフトウェア (iMovie) の使用方法を学習します。 →絵コンテをもとに映像素材を収集, 作成し, 写真撮影を実施します。
12	ストップモーションアニメの制作(5)	●ストップモーションアニメの制作 →映像編集ソフトウェア (iMovie) の使用方法を学習します。 →撮影した写真をコンピュータに入力し, 編集を実施します。 →音源素材を収集, 作成します。
13	ストップモーションアニメの制作(6)	●ストップモーションアニメの制作 →映像編集ソフトウェア (iMovie) の使用方法を学習します。 →撮影した写真をコンピュータに入力し, 編集を実施します。 →音源素材を収集, 作成します。
14	ストップモーションアニメの制作(7)	●ストップモーションアニメの制作 →撮影した写真をコンピュータに入力し, 編集を実施します。 →音源素材を収集, 作成します。
15	ストップモーションアニメの制作(8)	●ストップモーションアニメの制作 →講評を実施します。
16	詩と映像-撮影と映像編集(1)	●「詩と映像」の制作 →課題説明 →映像編集ソフトウェア (Adobe Premiere) の使用方法を学習します。
17	詩と映像-撮影と映像編集(2)	●「詩と映像」の制作 →課題説明 →映像編集ソフトウェア (Adobe Premiere) の使用方法を学習します。
18	詩と映像-撮影と映像編集(3)	●「詩と映像」の制作 →映像編集ソフトウェア (Adobe Premiere) の使用方法を学習します。 →絵コンテを作成します。
19	詩と映像-撮影と映像編集(4)	●「詩と映像」の制作 →映像編集ソフトウェア (Adobe Premiere) の使用方法を学習します。 →絵コンテを作成します。
20	詩と映像-撮影と映像編集(5)	●「詩と映像」の制作 →映像編集ソフトウェア (Adobe Premiere) の使用方法を学習します。 →絵コンテをもとに映像素材を収集, 作成し, ビデオカメラで撮影します。
21	詩と映像-撮影と映像編集(6)	●「詩と映像」の制作 →映像編集ソフトウェア (Adobe Premiere) の使用方法を学習します。 →絵コンテをもとに映像素材を収集, 作成し, ビデオカメラで撮影します。
22	詩と映像-撮影と映像編集(7)	●「詩と映像」の制作 →映像編集ソフトウェア (Adobe Premiere) の使用方法を学習します。 →絵コンテをもとに映像素材を収集, 作成し, ビデオカメラで撮影します。
23	詩と映像-撮影と映像編集(8)	●「詩と映像」の制作 →映像編集ソフトウェア (Adobe Premiere) の使用方法を学習します。 →絵コンテをもとに映像素材を収集, 作成し, ビデオカメラで撮影します。
24	詩と映像-撮影と映像編集(9)	●「詩と映像」の制作 →映像編集ソフトウェア (Adobe Premiere) の使用方法を学習します。 →撮影した映像素材をコンピュータに入力し, 編集を実施します。 →音源素材を収集, 作成します。
25	詩と映像-撮影と映像編集(10)	●「詩と映像」の制作 →映像編集ソフトウェア (Adobe Premiere) の使用方法を学習します。 →撮影した映像素材をコンピュータに入力し, 編集を実施します。 →音源素材を収集, 作成します。
26	詩と映像-撮影と映像編集(11)	●「詩と映像」の制作 →撮影した映像素材をコンピュータに入力し, 編集を実施します。 →編集結果を確認しながら, 調整をおこないます。
27	詩と映像-撮影と映像編集(12)	●「詩と映像」の制作 →撮影した映像素材をコンピュータに入力し, 編集を実施します。 →編集結果を確認しながら, 調整をおこないます。
28	詩と映像-撮影と映像編集(13)	●「詩と映像」の制作 →撮影した映像素材をコンピュータに入力し, 編集を実施します。 →編集結果を確認しながら, 調整をおこないます。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
29	詩と映像-撮影と映像編集 (14)	●「詩と映像」の制作 →撮影した映像素材をコンピュータに入力し、編集を実施します。 →編集結果を確認しながら、調整をおこないます。
30	詩と映像-撮影と映像編集 (15)	●「詩と映像」の制作 →講評を実施します。

科目名	CGアートⅣ	対象 単位数 必選	短期大学部 生活芸術科 2年 2単位 選択
担当教員	小松 太志		
開講期	Ⅳ		
授業概要	<p>【授業の目的・ねらい】</p> <p>①Webを活用したビジュアルコミュニケーション能力の養成 ②情報の構造化と視覚化に関する理解の促進</p> <p>【授業全体の内容の概要】</p> <p>①インターネットの基礎理解とHTML、CSSを使用したWebサイト制作について学修する。 ②演習を通して、情報を構造的に捉え、視覚を通して効果的に伝達する方法を理解する。</p>		
達成目標	<p>①HTML、CSSについて基礎的理解ができている。 ②HTML、CSS、JavaScriptを使用して簡易なWebサイトを制作できる。 ③ユーザビリティについて理解している。 ④情報の構造化と視覚化について理解している。</p>		
受講資格	<ul style="list-style-type: none"> 生活芸術科2年 対象 CGアート3を履修済みであることが望ましい。 	成績評価 方法	<p>授業の総合的理解度が7割程度に達していることを基本として、以下の3つ観点で所定のルーブリックに基づき評価する。</p> <p>①課題作品の制作過程（40%） ②課題作品（40%） ③課題作品の提出状況（20%）</p>
教科書	適宜、配布または提示する。		
参考書	適宜、提示する。		
学生への要望	<ul style="list-style-type: none"> 原則として、授業資料は再配布しない。授業を欠席して授業資料が受け取れなかった場合などは、出席者からコピーをさせてもらうなど各自対応すること。 欠席などで授業理解に遅れが生じた場合は、次の授業に支障をきたさないように事前学習を進めること。 当日に課題提出ができない場合は、事前に受け付ける。 		
オフィスタイム	火曜日 12:50~16:00 No.2生芸科研究室		
自学自習	<p>事前学習：当日の授業内容をテキスト等で確認しておくこと（1時間以上） 事後学習：当日の授業内容に基づいて課題制作を進めること（1時間以上）</p>		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	ガイダンス	<ul style="list-style-type: none"> ●CGアートⅣの授業計画について説明する ●インターネットの構造 →インターネットの仕組みについて理解する。
2	Web基礎	<ul style="list-style-type: none"> ●ブラウザソフトについて →Webページ閲覧ソフトの種類と使用方法について理解する。 ●Webページエディタソフトについて →Webページ編集ソフトの使用法の概要について理解する。
3	HTML基礎	<ul style="list-style-type: none"> ●HTML記述のルール ※HTML5を基本使用 →HTML記述に関する基本的なルールについて理解する。 ●HTML5の理解(1) →ドキュメントタイプ宣言、文書のメタデータ等に関するHTMLについて理解する。
4	HTML基礎	<ul style="list-style-type: none"> ●HTMLの理解(2) →テキストに関するHTMLについて理解する。 →セクションに関するHTMLについて理解する。 →各コンテンツ定義に関するHTMLについて理解する。
5	HTML基礎	<ul style="list-style-type: none"> ●HTMLの理解(3) →埋め込みコンテンツに関するHTMLについて理解する。 →Webにおける画像の使用について理解する。 →画像編集ソフトウェアを使用して、Web用画像を作成する。
6	HTML基礎	<ul style="list-style-type: none"> ●HTMLの理解(4) →テーブル、フォームに関するHTMLについて理解する。
7	CSS基礎	<ul style="list-style-type: none"> ●CSS記述のルール ※CSS2.1を基本使用 →CSSの記述に関する基本的なルールについて理解する。（CSSの書き方、セレクタの種類、カスケードの概念） ●CSSの理解(1) →フォント、文字色、背景、テキストに関するCSSについて理解する。
8	CSS基礎	<ul style="list-style-type: none"> ●CSSの理解(2) →マージン、パディング、幅、高さに関するCSSについて理解する。
9	CSS基礎	<ul style="list-style-type: none"> ●CSSの理解(3) →表示、配置、ボーダー、リストに関するCSSについて理解する。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
10	CSS基礎	●CSSによるレイアウト →ボックスの概念について理解する。
11	CSS基礎	●CSSによるレイアウト →ボックスレイアウトについて理解する。 →サンプルをもとにボックスを使用したレイアウトデザインをおこなう。
12	CSS基礎	●CSSによるレイアウト →ボックスレイアウトについて理解する。 →サンプルをもとにボックスを使用したレイアウトデザインをおこなう。
13	CSS基礎	●CSSによるレイアウト →ボックスレイアウトについて理解する。 →サンプルをもとにボックスを使用したレイアウトデザインをおこなう。
14	CSS基礎	●CSSによるレイアウト →ボックスレイアウトについて理解する。 →サンプルをもとにボックスを使用したレイアウトデザインをおこなう。
15	JavaScript基礎	●JavaScriptの理解 →JavaScriptの基礎について理解する。
16	JavaScript基礎	●Javascriptの使用： →jQueryライブラリの導入方法について理解する。 →jQueryライブラリを使用してスライドショーを作成する。
17	JavaScript基礎	●Javascriptの使用： →jQueryライブラリを使用してスライドショーを作成する。
18	JavaScript基礎	●Javascriptの使用： →jQueryライブラリを使用してスライドショーを作成する。
19	JavaScript基礎	●Javascriptの使用： →jQueryライブラリを使用して画像のポップアップを作成する。
20	JavaScript基礎	●Javascriptの使用： →jQueryライブラリを使用して画像のポップアップを作成する。
21	Webサイトの制作	●Dreamweaverを使用して、Webサイトの制作をおこなう。自分のギャラリーサイトを作成する。 →参考サイトの調査
22	Webサイトの制作	●Dreamweaverを使用して、Webサイトの制作をおこなう。自分のギャラリーサイトを作成する。 →参考サイトの調査、発表
23	Webサイトの制作	●Dreamweaverを使用して、Webサイトの制作をおこなう。自分のギャラリーサイトを作成する。 →サイトマップの制作 →ページデザイン案の作成、検討
24	Webサイトの制作	●Dreamweaverを使用して、Webサイトの制作をおこなう。自分のギャラリーサイトを作成する。 →サイトマップの制作 →ページデザイン案の作成、検討
25	Webサイトの制作	●Dreamweaverを使用して、Webサイトの制作をおこなう。自分のギャラリーサイトを作成する。 →ページデザイン案の作成、検討 →コーディング作業
26	Webサイトの制作	●Dreamweaverを使用して、Webサイトの制作をおこなう。自分のギャラリーサイトを作成する。 →ページデザイン案の作成、検討 →コーディング作業
27	Webサイトの制作	●Dreamweaverを使用して、Webサイトの制作をおこなう。自分のギャラリーサイトを作成する。 →コーディング作業 →サーバ上にデータをアップロード →動作確認
28	Webサイトの制作	●Dreamweaverを使用して、Webサイトの制作をおこなう。自分のギャラリーサイトを作成する。 →コーディング作業 →サーバ上にデータをアップロード →動作確認
29	Webサイトの制作	●Dreamweaverを使用して、Webサイトの制作をおこなう。自分のギャラリーサイトを作成する。 →プレゼンテーションと講評
30	Webサイトの制作	●Dreamweaverを使用して、Webサイトの制作をおこなう。自分のギャラリーサイトを作成する。 →プレゼンテーションと講評

平成30年度

科目名	挿花Ⅱ	対象 単位数 必選	短期大学部 生活芸術科 2年 2単位 選択
担当教員	先崎 雅一郎		
開講期	通年		
授業概要	実習を通して、挿花の基本的な知識や表現方法を習得し、「生活に活かす挿花」について考えを深める。 ■免許状について単位取得見込の者が所定の料金を添えて申し込むことにより取得できる。2年間受講 … 池坊華道職位免許状「皆伝・華掌」 (申込：11月下旬/参考：H28度13,500円)		
達成目標	四季の花・草木を通して心を表現し、万物が変化するようにそれぞれの時代が求めるスタイルへと変化を重ねながら心を潤してきた挿花。生けるプロセスの心を大切にその美学は、まさに「心を生ける」そのもので、目標もそこにある。		
受講資格	生活芸術科 2年生 (1年生と合同で授業を行う)	成績評価 方法	①実習 (70%) ②レポート (30%) この授業の理解度が7~8割に達したことを前提とするが、通年科目のため実習のまとめとしてⅣ期末にレポート提出を求める。
教科書	いけばなテキスト「基本と実習」 (コピーを適宜配布するので購入しなくてもよい)		
参考書	特に指定しない。		
学生への要望	レポートは提出期限を厳守する。		
オフィスタイム	水曜1限のNo.1生芸研究室など。		
自学自習	授業内で学んだことを自分のものとしてできるよう事後学習を2時間程度行ってください。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	実習	自由花・複合形態Ⅰ 花材を見て取り組み方を考える
2	実習	自由花・複合形態Ⅱ 花材を見て取り組み方を考える
3	実習	自由花・複合形態Ⅲ 花材を見て取り組み方を考える
4	実習	自由花 全体から部分への見方を考える
5	実習	造形感覚としての素材美Ⅰ 自由花形式に合わせる
6	実習	造形感覚としての素材美Ⅱ 自由花形式に合わせる
7	実習	造形感覚としての素材美Ⅲ 自由花形式に合わせる
8	実習	造形感覚としての素材美Ⅳ 自由花形式に合わせる
9	実習	アレンジメントフラワー (行事に合わせたもの/母の日・父の日・節句など)
10	実習	発想・モチーフとテーマⅠ 花材を見て取り組み方を考える
11	実習	発想・モチーフとテーマⅡ 個々の制作意識を高める
12	実習	発想・モチーフとテーマⅢ 個々の制作意識を高める
13	実習	草木の出生と自然を考えて生花を組み立てる
14	実習	生花の基本花型とその成り立ちを学ぶ
15	実習	生花の陰陽と和合の調和を考える
16	講義	Ⅲ期の反省と作品の総評
17	講義	共同制作展示について (もみじ会大作など)
18	実習	生花正風体Ⅰ 一種生の基本
19	実習	生花正風体Ⅱ 二種生の基本
20	実習	生花正風体Ⅲ 三種生の基本
21	実習	アレンジメントフラワー (クリスマス・正月用飾花など)
22	実習	一種生 応用
23	実習	二種生 応用
24	実習	三種生Ⅰ 主観的に生ける
25	実習	三種生Ⅱ 抽象的に生ける
26	実習	三種生Ⅲ 主観・抽象的な考え方で同時に生ける
27	実習	生花新風体Ⅰ 主観的に生ける
28	実習	生花新風体Ⅱ 抽象的に生ける
29	実習	生花新風体Ⅲ 主観・抽象的な考え方で同時に生ける
30	講評	まとめ 一年間あるいは二年間の反省と作品の総評 ・講義：「生活に活かす挿花」 (年度末に試験を実施する。平常授業時に制作した作品も含めて総合的に評価する)

平成30年度

科目名	近代詩文書Ⅱ	対象 単位数 必選	短期大学部 生活芸術科 2年 2単位 選択
担当教員	小田川 明		
開講期	通年		
授業概要	素材の詩情を酌んだ近代詩文書の作品制作の意識を重視し、生活に密着した創作活動への方向性を追究することを目標とする。		
達成目標	素材の詩情を酌んだ近代詩文書の作品制作の意識を重視し、生活に密着した創作活動への方向性を追究することを目標とする。		
受講資格	1・2年生（合同）	成績評価 方法	平常点40%・作品（もみじ会作品を含む）20%・レポート20%・日常課題に取り組む姿勢20%とする。
教科書	教科書は使用せず、原則として毎週、学年別に二種類の参考を配布する。なお、授業の進行は書道辞典・飯島春敬編（東京堂出版）書の基本資料（中教出版）を根拠とする。		
参考書	特に指定しない。		
学生への要望	参考手本に捉われ過ぎない、品格ある創作への取り組み。書のみならず他部門の展覧会等鑑賞および市街地での看板等への注目。〔その他〕通常授業では、1・2年生共に半紙を使用する。また、年数回は画仙紙を使用した作品制作をする。		
オフィスタイム	水曜1限のNo.1 生芸研		
自学自習	授業内で学んだことを自分のものとしてできるよう事後学習を2時間程度行ってください。		

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	ガイダンス（1・2年生合同）	①簡易な文房四宝、②文字の起源と変遷、③現代の日常文字を使用して表現する近代詩文書について説明をする。半紙を使用した実習をする。
2	筆触による効果1	軽やかな筆触をテーマに、同素材を二種類以上に表現する。
3	筆触による効果2	「ふうりん」「風鈴」等、同じ言葉を平仮名と漢字を使用した筆触の変化に取組む。
4	細線太線での結構	一字の中に、細線と太線を組み入れての結構法を習得する。
5	短線長線での結構	一字の中に、短線と長線を組み入れての結構法を習得する。
6	短文での章法	短文を素材に、余白美を重視した章法を学ぶ。
7	長文での章法	長文を素材に、集合体を意識した章法を学ぶ。
8	大字と細字の調和	大字と小字を調和させる表現方法を学ぶ。
9	作品制作（1・2年生同一テーマ）	四回にわたり、○自作の詩歌を、潤濁・疎密・墨色、筆官の持つ位置による筆触等を考慮して、画仙紙1/3（70×45cm）の作品を制作する。○自作の詩歌を、半紙以内の小品に制作する。
10	作品制作（1・2年生同一テーマ）	四回にわたり、○自作の詩歌を、潤濁・疎密・墨色、筆官の持つ位置による筆触等を考慮して、画仙紙1/3（70×45cm）の作品を制作する。○自作の詩歌を、半紙以内の小品に制作する。
11	作品制作（1・2年生同一テーマ）	四回にわたり、○自作の詩歌を、潤濁・疎密・墨色、筆官の持つ位置による筆触等を考慮して、画仙紙1/3（70×45cm）の作品を制作する。○自作の詩歌を、半紙以内の小品に制作する。
12	作品制作（1・2年生同一テーマ）	四回にわたり、○自作の詩歌を、潤濁・疎密・墨色、筆官の持つ位置による筆触等を考慮して、画仙紙1/3（70×45cm）の作品を制作する。○自作の詩歌を、半紙以内の小品に制作する。
13	篆刻実習（1・2年生同一テーマ）	検字、印稿作成、布字、運刀、補刀の順で篆刻実習をし、作品に押印する。
14	裏打ち実習（1・2年生合同）	鳥の子を使用して、小品の裏打ちをする。
15	席上揮毫1（1・2年生合同）	席上揮毫（書道パフォーマンスを意識した表現に取り組む。画仙紙全紙（70×136cm）数枚を貼り合わせ、合作における調和を学ぶ。
16	席上揮毫2（1・2年生合同）	席上揮毫（書道パフォーマンスを意識した表現に取り組む。画仙紙全紙（70×136cm）数枚を貼り合わせ、合作における調和を学ぶ。
17	作品の評価（1・2年生合同）	作品について反省会をする。○表現の方向性、○使用用具、○表装した感想、○展示状況と印象、○今後の抱負等についてレポートを提出する。
18	甲骨文からの発展	素朴な線条の亀甲獣骨文字の筆意で、詩文書作品に取り組む。
19	金文からの発展	蔵鋒を駆使した金文の筆意で、詩文書作品に取り組む。
20	古隸からの発展	大らかで伸びやかな古隸の筆意で、詩文書作品に取り組む。
21	アルファベットとの調和1	アルファベットと日本語を組み合わせ、調和を追究する。
22	アルファベットとの調和2	前回の課題を横書きにし、調和のみならず発想の転換を図る。
23	年賀状の創作（1・2年生同一テーマ）	干支をメインテーマとして、年賀状のコンパクトなデザインを楽しむ。
24	ポスター制作	三回にわたり、福島県の○工芸品、○名産品、○観光地やイベント等を素材とし、デザイン職に通ずる様なキャッチコピーを付記したポスターを制作する。
25	ポスター制作	三回にわたり、福島県の○工芸品、○名産品、○観光地やイベント等を素材とし、デザイン職に通ずる様なキャッチコピーを付記したポスターを制作する。
26	ポスター制作	三回にわたり、福島県の○工芸品、○名産品、○観光地やイベント等を素材とし、デザイン職に通ずる様なキャッチコピーを付記したポスターを制作する。
27	作品制作（1・2年生同一テーマ）	1年を振り返り漢字一字で表現し、その説明を付記した作品を制作する。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
28	作品制作（1・2年生同一テーマ）	新年の抱負を漢字一字で表現し、その説明を付記した作品を制作する。
29	作品制作（1・2年生同一テーマ）	二回にわたり、指定した詩人の詩を、潤濁・疎密・墨色・詩情等の制作意図に立脚し、半紙二枚分の大きさの作品を制作する。
30	作品制作（1・2年生同一テーマ）	二回にわたり、指定した詩人の詩を、潤濁・疎密・墨色・詩情等の制作意図に立脚し、半紙二枚分の大きさの作品を制作する。

科目名	卒業研究		対象 単位数 必選	短期大学部 幼児教育学科 2年 2単位 必修/短期大学部 生活芸術科 2年 4単位 必修/短期大学部 音楽科 2年 2単位 必修/短期大学部 文化学科 2年 4単位 必修/短期大学部 家政科食物栄養専攻 2年 2単位 選択/短期大学部 健康栄養学科 2年 2単位 選択
担当教員	浅野 章, 齊藤 弘久, 小松 太志, 松田 理香, 黒沼 令			
開講期	通年			
授業概要	<p>絵画というものは精神性なくして成立しないことは当然ですが、同時にその精神は素材を通して表現されます。故に技術と精神は切り離しては考えられません。どうすれば自分の表現したい物に近づけるか。作者はいつも技法の研究と発見に努力をしなければならぬということです。この授業では油彩画Ⅰで学習したことを基礎とし、更に一歩踏み込んで学生各自の個性に合わせ、二年間の集大成としての、より高度な技法の研究と表現を目指します。</p> <p><input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/></p>			
達成目標	油彩画の特質を十分に感じ、理解できるよう努力しましょう。そのうえで、個性ある自分だけの絵画空間を創りあげ、二年間の集大成としての、より高度な技法の研究と表現を目指します。			
受講資格	生活芸術科2年	成績評価 方法	<p>この授業の理解度が7～8割に達したことを前提として次の項目を評価の観点とする。</p> <p>①提出作品の課題目標達成度が70%以上であること（配点80点） ②授業に対する関心・意欲・態度（配点20点） <input type="checkbox"/></p>	
教科書	教科書は特に使用しません。			
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・新技法シリーズ絵画入門 … 佐藤一郎著（美術出版社）<input type="checkbox"/> ・彩色技法 … J・M パラモン（グラフィック社）<input type="checkbox"/> ・その他、授業に関する画集・資料などは適宜指示します。<input type="checkbox"/> 			
学生への要望	油彩画の大作を描くことの意味をよく考え、主体的、積極的な姿勢で授業に望む。また、空き時間を有効に活用し十分に時間をかけて、制作を進めること。 <input type="checkbox"/>			
オフィスタイム	授業に関する質問及び相談は、毎週火曜日から金曜日の授業のない時間、又は放課後に、N0.1生芸研究室又は絵画Ⅱ室で受けます。			
自学自習	<p>【事前学習】授業に関連する画集などを事前に関覧、研究しておく。また絵具や画材についても調べておく。（2時間）</p> <p>【事後学習】実技授業実施内容を踏まえ、機会があれば美術館や画廊などに足を運び、実物の油彩画作品を鑑賞してみる。（2時間）</p>			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	卒業研究履修についてのオリエンテーション <input type="checkbox"/>	<ul style="list-style-type: none"> ・各自、卒業研究の目標を確認します。 ・1年間の授業内容や使用道具の説明。 ・道具点検—各自で油絵具や筆などを点検して不足分の補充をして下さい。（作品の大型化に伴い、大型ペインティングナイフの準備等）<input type="checkbox"/>
2	同上	・静物画及び自由画どちらかを選び、それぞれモチーフ作りやエスキースを始めます。
3	静物画、自由画制作—1 <input type="checkbox"/>	<p>… 作品制作</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各自で制作日程を検討し、作品完成までの計画を立てましょう。 ・静物画に関しては身近な“物”の美しさを発見し、自分の内的感情を追及し作品にしていきましょう。 ・自由画に関しては自分のテーマ、進め方について考えましょう。 ・木枠を組み立て各自でキャンバスを張ります。（大型化のため、共同作業。）
4	同上	<p>… 作品制作</p> <ul style="list-style-type: none"> ・木枠を組み立て各自でキャンバスを張ります。（大型化のため、共同作業。）
5	静物画、自由画制作—2 <input type="checkbox"/>	<p>… 作品制作</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各自の計画に沿って制作を進めましょう。<input type="checkbox"/> ・スケッチブックに鉛筆、木炭などでエスキースをします。
6	同上	<p>… 作品制作</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各自の計画に沿って制作を進めましょう。 ・全体感を損なわないように気をつけながら構図を徐々に決めていきましょう。
7	静物画、自由画制作—3 <input type="checkbox"/>	<p>… 作品制作</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各自の計画に沿って制作を進めましょう。 ・油絵具、オイルなどの技法や使用方法を色々、工夫してみましょう。<input type="checkbox"/>
8	同上	<p>… 作品制作</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各自の計画に沿って制作を進めましょう。 ・参考作品や画集などを適宜見ながら、徐々に進めていきましょう。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
9	静物画、自由画制作－ 4	… 作品制作 ・各自の計画に沿って制作を進めましょう。 ・細部にとらわれず、絶えず全体の関係でものを観ましょう。
10	同上	… 作品制作 ・各自の計画に沿って制作を進めましょう。 ・静物画では人物とは異なる“物”の持つ素朴な形の組合わせを感じながら表現して行きましょう。
11	静物画、自由画制作－ 5	… 作品制作 ・各自の計画に沿って制作を進めましょう。 ・細部にとらわれず、絶えず全体の関係でものを観ましょう。
12	同上	… 作品制作 ・各自の計画に沿って制作を進めましょう。 ・光の方向や取り入れ方を工夫して画面に変化を与えてみましょう。
13	静物画、自由画制作－ 6	… 作品制作 ・各自の計画に沿って制作を進めましょう。 ・細部にとらわれず、絶えず全体の関係でものを観ましょう。□
14	同上	… 作品制作 ・各自の計画に沿って制作を進めましょう。 ・静物画では床、モチーフ台、モチーフ、背面の関係をもう一度確認してみましょう。
15	静物画、自由画制作－ 7	… 作品制作 ・各自の計画に沿って制作を進めましょう。 ・細部にとらわれず、絶えず全体の関係でものを観ましょう。□
16	同上	… 作品制作 ・各自の計画に沿って制作を進めましょう。 ・色彩の取り入れ方を工夫する。例としては、反対色は強烈な印象、同系色は統一した印象になる等。
17	静物画、自由画制作－ 8	… 作品制作 ・各自の計画に沿って制作を進めましょう。 ・細部にとらわれず、絶えず全体の関係でものを観ましょう。
18	同上	… 作品制作 ・各自の計画に沿って制作を進めましょう。 ・画面の中で必要な箇所は強調、不必要な箇所は省略をしながらいい形を探っていくきましょう。
19	静物画、自由画制作－ 9	… 作品制作 ・各自の計画に沿って制作を進めましょう。 ・細部にとらわれず、絶えず全体の関係でものを観ましょう。
20	同上	… 作品制作 ・各自の計画に沿って制作を進めましょう。 ・密度のある描き込みによって物と空間との関係をしっかりと把握していきます。
21	静物画、自由画制作－ 1 0	… 作品制作 ・各自の計画に沿って制作を進めましょう。 ・細部にとらわれず、絶えず全体の関係でものを観ましょう。
22	同上	… 作品制作 ・各自の計画に沿って制作を進めましょう。 ・制作もかなり進んできたが描きこむ事によって表現が硬くならないように注意しましょう。
23	静物画、自由画制作－ 1 1	… 作品制作 ・各自の計画に沿って制作を進めましょう。 ・細部にとらわれず、絶えず全体の関係でものを観ましょう。
24	同上	… 作品制作 ・各自の計画に沿って制作を進めましょう。 ・描きだしの新鮮さを思いだし、色が沈んでいる場合は彩度を上げてみるなど、工夫をしましょう。
25	静物画、自由画制作－ 1 2	… 作品制作 ・各自の計画に沿って制作を進めましょう。 ・細部にとらわれず、絶えず全体の関係でものを観ましょう。
26	同上	… 作品制作 ・各自の計画に沿って制作を進めましょう。 ・かなり完成に近づいてきましたが最後まで手を抜かず細心の注意をはらいましょう。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
27	静物画、自由画制作－1 3	…作品制作 ・各自の計画に沿って制作を進めましょう。 ・細部にとらわれず、絶えず全体の関係でものを観ましょう。
28	同上	…作品制作 ・各自の計画に沿って制作を進めましょう。 ・最後の微調整では画面全体の形とバランスを整えて完成とします。
29	静物画、自由画講評会	…講評会 ・仕上がった作品を並べ、画集や参考作品なども用いながら講評します。□
30	同上	…講評会 ・質問や意見交換も多角的に行い油彩画静物制作の目標達成を目指します。
31	オリエンテーションとエスキース制作	※これよりⅣ期 ・残り半期の授業内容や使用道具の説明をします。 ・道具点検—各自で、油絵具や筆などを点検して不足分の補充をしましょう。 ・卒業制作をイメージしながら80号以上のキャンバス1点と小キャンバスを5～6枚準備して下さい。
32	同上	…作品制作 ・卒業制作をイメージしながら少しずつエスキースをしましょう。
33	構成画制作－1	…作品制作 ・構成画制作では今までの油彩画やデッサンで学んだことを踏まえ、構想を練りましょう。 ・各自、効率的な制作日程を検討し、計画を立てましょう。
34	同上	…作品制作 ・スケッチブックに鉛筆、木炭などでエスキースをします。
35	構成画制作－2	…作品制作 ・各自の計画に沿って制作を進めましょう。 ・画面の中で必要な箇所は強調、不必要な箇所は省略をしながら、いい形を探って行きましょう。
36	同上	…作品制作 ・各自の計画に沿って制作を進めましょう。 ・画面の中で必要な箇所は強調、不必要な箇所は省略をしながら、いい形を探って行きましょう。
37	構成画制作－3	…作品制作 ・各自の計画に沿って制作を進めましょう。 ・作品制作・油絵具、オイルなどの技法や使用方法を色々、工夫してみましょう。
38	同上	…作品制作 ・各自の計画に沿って制作を進めましょう。 ・参考作品や画集等を適宜見ながら、徐々に進めていき、まとめに入ります。
39	構成画作品講評会	…作品講評 ・仕上がった構成画作品を並べ参考作品や画集等も用いながら講評します。
40	同上	…作品講評 ・質問や意見交換も多角的に行ない油彩画構成制作の目標達成を目指します。
41	市民展搬入準備	…搬入準備 ・各自、出品票や額の準備をします。。
42	同上	…搬入準備 ・各自、出品票や額の準備をします。 ・額にニスやアクリル絵具で色を塗る学生はその準備をします。
43	市民展見学	…市展見学 ・展覧会会場で自分の作品がどのように見えるかを確認しましょう。 ・他の作品と比較検討して卒業制作展会場での作品展示のイメージを作っておきましょう。
44	同上	…市展見学 ・展覧会会場で自分の作品がどのように見えるかを確認しましょう。 ・他の作品と比較検討して卒業制作展会場での作品展示のイメージを作っておきましょう。
45	卒業制作－1	…ガイダンス ・油彩画の平面作品に限定せず他の素材を使った立体作品またはインスタレーションなど表現方法は自由とします。 ・作品制作・スケッチブックに鉛筆、木炭などでエスキースをします。
46	同上	…作品制作 ・作品制作・スケッチブックに鉛筆、木炭などでエスキースをします。 ・各自、制作日程を検討し、計画を立てましょう。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
47	卒業制作－ 2	<ul style="list-style-type: none"> …作品制作 ・各自の計画に沿って制作を進めます。
48	同上	<ul style="list-style-type: none"> …作品制作 ・各自の計画に沿って制作を進めます。 ・画面の中で必要な箇所は強調、不必要な箇所は省略しながら、いい形を探って行きましょう。
49	卒業制作－ 3	<ul style="list-style-type: none"> …作品制作 ・各自の計画に沿って制作を進めましょう。 ・細部にとらわれず、絶えず全体の関係でものを観ましょう。
50	同上	<ul style="list-style-type: none"> …作品制作 ・各自の計画に沿って制作を進めましょう。 ・密度のある描き込みによって物と空間との関係をしっかりと把握して行きましょう。
51	卒業制作－ 4	<ul style="list-style-type: none"> …作品制作 ・各自の計画に沿って制作を進めましょう。 ・細部にとらわれず、絶えず全体の関係でものを観ましょう。
52	同上	<ul style="list-style-type: none"> …作品制作 ・各自の計画に沿って制作を進めましょう。 ・制作もかなり進んできたが書き込む事によって表現が硬くならないように注意をしましょう。
53	卒業制作－ 5	<ul style="list-style-type: none"> …作品制作 ・各自の計画に沿って制作を進めましょう。 ・細部にとらわれず、絶えず全体の関係でものを観ましょう。
54	同上	<ul style="list-style-type: none"> …作品制作 ・各自の計画に沿って制作を進めましょう。 ・描き込むことによって表現が硬くならないように注意しながら完成へと向かいます。
55	卒業制作－ 6	<ul style="list-style-type: none"> …作品制作 ・各自の計画に沿って制作を進めましょう。 ・細部にとらわれず、絶えず全体の関係でものを観ましょう。
56	同上	<ul style="list-style-type: none"> …作品制作 ・各自の計画に沿って制作を進めましょう。 ・かなり完成に近づいてきたが最後まで手を抜かず細心の注意をはらいましょう。
57	卒業制作作品搬入準備	<ul style="list-style-type: none"> …作品の完成、搬入準備 ・卒業制作作品の額にニスやアクリル絵具で色を塗る学生はその準備をします。
58	同上	<ul style="list-style-type: none"> …作品の完成、搬入準備 ・会場展示のプレゼンテーションをします。
59	卒業制作作品講評会	<ul style="list-style-type: none"> …講評会 ・完成した作品は卒業制作展において展示し、2年間の学習の成果として発表します。
60	同上	<ul style="list-style-type: none"> …講評会及び意見交換 ・各自、作品の前で質問や意見交換も多角的に行ないながら講評します。 ・一年間の総評をします。

科目名	卒業研究		対象 単位数 必選	短期大学部 幼児教育学科 2年 2単位 必修/短期大学部 生活芸術科 2年 4単位 必修/短期大学部 音楽科 2年 2単位 必修/短期大学部 文化学科 2年 4単位 必修/短期大学部 家政科食物栄養専攻 2年 2単位 選択/短期大学部 健康栄養学科 2年 2単位 選択
担当教員	齊藤 弘久, 浅野 章, 小松 太志, 松田 理香, 黒沼 令			
開講期	通年			
授業概要	現代社会におけるグラフィックデザインの役割は重要なものとなってきている。対人間のより良いコミュニケーションはもとより、地球環境全体にまで及ぶ深い洞察と積極的関与が求められている。このような時代の中にあつて、グラフィックデザインが人間生活にどのように寄与できるかを考える。			
達成目標	人間が生活にどのように寄与できるかを考えると共に、学生としての新しい視点を見つけ出すことを目的としている。作品の完成度が高いことも大切であるが、主体的な研究・作品制作の過程がより重要である。			
受講資格	短大生活芸術科 2年生	成績評価 方法	次の項目を評価の観点とする。 ①提出作品の課題目標達成度が70%以上であること。(配点80点) ②授業に対する関心・意欲・態度(配点20点)	
教科書	なし。			
参考書	各自の研究制作に参考となる書籍や図録などを推薦する。			
学生への要望	専門的な立場から、主体的に研究・制作されたい。参考資料や使用する道具・素材を事前に準備しておくことが大切である。			
オフィスタイム	授業に関する質問や相談は毎週金曜日を除く毎日空きコマにNo2. デザイン室で受けます。			
自学自習	身の回りで起きている出来事などを興味を持って感じ取るよう心がける。			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	ガイダンス	卒業研究の目的と進め方について説明する。 現代デザインの動向を知り、その役割と問題点を理解する。
2	討論会	現代デザインの役割と問題点について、特に人間のコミュニケーションのあり方と地球環境の側面から討論する。
3	研究方法	作品テーマ(表現のための主題)を決定するための研究方法について学ぶ。
4	研究資料について	参考文献と参考作品の収集の方法を知る。直接取材についても考える。
5	研究テーマⅠ	デザイン分野や技法から考えるのではなく、純粋に表現したい事柄を文章化してみる。提出する。人間生活の中で、どのようなことがデザインの力で、より良くなるのかを考える。
6	研究テーマⅡ	文章化した「表現のためのテーマ」を読み返し、過不足があれば書き加える。次にキーワードを抜き書きし、考えていること全体の輪郭を見る。
7	資料の収集Ⅰ	自分が考えているテーマが現代のデザイン界で、どのように表現されているのか。その類型を収集する。
8	資料の収集Ⅱ	文章化したテーマを作品化(視覚化)するために必要な資料を考え収集する。 授業時間内だけの収集には限界があるので、普段から心がけて資料のスクラップを行う必要がある。
9	ムードボード制作Ⅰ	収集した資料(画像・テキストなど)をB2のパネルに貼り、考えている事柄全体の雰囲気を感じ取る。写真・新聞の切り抜き・メモ・スケッチなど幅広く集め、一覧できるものにする。
10	ムードボード制作Ⅱ	貼り付ける画像やスケッチの大小・傾き・色調のバランスも考えながら制作する。
11	表現テーマの決定	ムードボードやその他の資料をもとに、表現テーマを決定する。 小さいスケッチ(サムネイル)を描いてみる。
12	表現技法の決定	テーマを表現するために、最も適している技法を考える。大きくCGと手描き技法に分けて考えるが、併用もありうるので柔軟に考える。手描きの場合は描画材料のほかに、基底材についても考える必要がある。
13	プレ制作Ⅰ	材料実験を兼ねて、縮小サイズでミニチュアを制作し、これを完成予想図とする。
14	プレ制作Ⅱ	この時に、今後制作中に起こる問題点を予測する。材料的な問題・技術的な問題点・さらに必要な資料・展示の際の問題点などを予測する。また、どこに多くの時間を要するかも考えておく。
15	制作計画・材料の手配	本制作の計画書を作成する。時間の配分をよく考えて作成する。修正作業に2週間は確保すること。展示作業も含め、必要な材料・用具を手配する。
16	本制作①基底材	基底材に対応した下地処理を行う。紙の場合は水張りなど。パソコンによる制作の場合でも、最終的に印刷物で展示する場合はパネルを準備する。
17	本制作②(下絵)	トレーシングペーパーなどを使用して、下絵を描く。大きい画面の作品は離れて見てバランスを確認することが必要である。パソコンの場合は、スケッチをスキャンして下絵とする。
18	本制作③(下絵)	細部については転写後でも描くことができるので、全体のバランスを優先的に描いていく。
19	本制作④(下絵)	細部については転写後でも描くことができるので、全体のバランスを優先的に描いていく。
20	本制作⑤(下絵の転写)	トレーシングペーパーに鉛筆の粉を塗りつけて、カーボン紙の代わりにするものを作っておく。これを基底材と下描きの間にはさみ転写していく。この際、ずれが生じないように下絵の周囲をテープで固定しておく。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
21	本制作⑥（下絵の転写）	トレスリングペーパーに鉛筆の粉を塗りつけて、カーボン紙の代わりにするものを作っておく。これを基底材と下描きの間にはさみ転写していく。この際、ずれが生じないように下絵の周囲をテープで固定しておく。
22	本制作⑦（描画・彩色）	平面的な作品の場合は、大きい面から彩色し、画面の大勢を占める色調を把握する。描画的作品の場合は画面上で中心になっている部分から描画していく。色彩計画はミニチュア制作の段階で大まかに決めておくが、原寸大になると再考する部分が出てくるので、基調色に基づいて決定していく。
23	本制作⑧（描画・彩色）	大まかに全体的に制作を進めていく。最初から細部に走らない。
24	本制作⑨（描画・彩色）	迷わずに制作し、一定の結果が出たら作品の検証を行う。授業時間内だけでは時間的に不足するので、学生は空き時間をすべて利用して制作に専念すること。
25	本制作⑩（描画・彩色）	制作に専念する。パソコンで制作している学生は、この時点で出力しておく。（CG室大判プリンタ）
26	途中経過発表会	制作中の作品を全員で鑑賞し、感想を述べ合う。特にテーマとの合致性、今後の問題点について確認し、以後の制作の指針とする。
27	修正・仕上げ①	経過発表会で確認した点につて、修正・強調などを行い、完成度を上げていく。
28	修正・仕上げ②	同上。
29	修正・仕上げ③	遠くから離れて作品を鑑賞し、微調整を加えていく。展示具をパネルに取り付けておく。
30	作品講評・まとめ	作品が生み出されるまでの全工程を振り返って、鑑賞する。自分で決定したテーマが表現できているか、それが、どのくらいできているのか検証する。お互いに意見を述べ合う。教員は講評する。

科目名	卒業研究		対象 単位数 必選	短期大学部 幼児教育学科 2年 2単位 必修/短期大学部 生活芸術科 2年 4単位 必修/短期大学部 音楽科 2年 2単位 必修/短期大学部 文化学科 2年 4単位 必修/短期大学部 家政科食物栄養専攻 2年 2単位 選択/短期大学部 健康栄養学科 2年 2単位 選択
担当教員	小松 太志, 浅野 章, 齊藤 弘 久, 松田 理香, 黒沼 令			
開講期	通年			
授業概要	<p>【授業の目的・ねらい】</p> <p>①卒業研究CG分野の特性を理解して、独自の表現手法の構築する。 ②コンピュータによる造形制作に習熟する。</p> <p>【授業全体の内容の概要】</p> <p>①卒業研究 (CG) は、静止画・動画・Webなどの広範な表現領域を含む。制作過程や入力・出力媒体、またはコンセプトの核としてコンピュータの特性を理解し、活用されているかどうかをCG領域の特性とする。</p>			
達成目標	<p>①卒業制作展に向けた制作活動を通じて、独自の表現を探求する基盤ができています。 ②コンピュータ・グラフィックスによる造形表現技術の向上を目指すための基盤ができています。 ③工程を明確にして、計画的に制作を進めることができる。</p>			
受講資格	<ul style="list-style-type: none"> 生活芸術科2年 対象 CGアート1・2を履修済みであることが望ましい。 	成績評価方法	<p>授業の総合的理解度が7割程度に達していることを基本として、以下の3つ観点で所定のルーブリックに基づき評価する。</p> <p>①卒業研究の制作過程 (40%) ②卒業研究作品 (50%) ③授業への姿勢・意欲 (10%)</p>	
教科書	適宜、配布または提示する。			
参考書	適宜、提示する。			
学生への要望	<ul style="list-style-type: none"> 原則として、授業資料は再配布しない。授業を欠席して授業資料が受け取れなかった場合などは、出席者からコピーをさせてもらうなど各自対応すること。 欠席などで授業理解に遅れが生じた場合は、次の授業に支障をきたさないように事前学習を進めること。 当日に課題提出ができない場合は、事前に受け付ける。 			
オフィスタイム	火曜日 12:50~16:00 No.2生芸科研究室			
自学自習	<p>事前学習：研究・制作の進捗状況を報告できるように準備すること (1時間以上)</p> <p>事後学習：当日の授業内容に基づいて、研究・制作を進めること (1時間以上)</p>			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	ガイダンス	<ul style="list-style-type: none"> ●卒業研究 (CG) の授業目標・授業計画について説明 - 過去の卒業研究作品とその制作過程を紹介
2	一次制作 (もみじ会出品作品の制作)	<ul style="list-style-type: none"> ●コンピュータのメディア特性を活用した芸術・デザイン作品を資料提示 (以後、適宜資料を提示) →コンピュータによる造形表現の可能性について理解を深めます。 ●造形全般について作品資料を収集 (以後、適宜資料を収集) →造形的な方向性について検討を試みます。
3	一次制作	<ul style="list-style-type: none"> ●コンピュータのメディア特性を活用した芸術・デザイン作品を資料提示 (以後、適宜資料を提示) →コンピュータによる造形表現の可能性について理解を深めます。 ●造形全般について作品資料を収集 (以後、適宜資料を収集) →造形的な方向性について検討を試みます。
4	一次制作	<ul style="list-style-type: none"> ●表現の方向性 (造形、メディア、展示形態) について検討 →造形：形態や色彩、材質感などの視覚的イメージについて検討 →メディア：表現 (静止画、動画、Web) に応じた入力装置、出力装置、制作機器について検討 →展示形態：展示方法について検討
5	一次制作	<ul style="list-style-type: none"> ●表現の方向性 (造形、メディア、展示形態) について検討 →造形：形態や色彩、材質感などの視覚的イメージについて検討 →メディア：表現 (静止画、動画、Web) に応じた入力装置、出力装置、制作機器について検討 →展示形態：展示方法について検討
6	一次制作	<ul style="list-style-type: none"> ●表現の方向性 (造形、メディア、展示形態) について検討 →適宜、アイデアスケッチを作成します。
7	一次制作	<ul style="list-style-type: none"> ●表現の方向性 (造形、メディア、展示形態) について検討 →適宜、アイデアスケッチを作成します。
8	一次制作	<ul style="list-style-type: none"> ●プレゼンテーション →表現の方向性についてプレゼンテーションを実施します。 一次制作作品完成までのスケジュール、想定し得る技術的課題についても明らかにします。
9	一次制作	<ul style="list-style-type: none"> ●プレゼンテーション →表現の方向性についてプレゼンテーションを実施します。 一次制作作品完成までのスケジュール、想定し得る技術的課題についても明らかにします。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
10	一次制作	●制作 →表現に応じて必要とされる技術・知識を習得します。 →アイデアスケッチをもとに、写真・イラストレーション等の作品要素を収集・制作します。
11	一次制作	●制作 →表現に応じて必要とされる技術・知識を習得します。 →アイデアスケッチをもとに、写真・イラストレーション等の作品要素を収集・制作します。
12	一次制作	●制作 →表現に応じて必要とされる技術・知識を習得します。 →アイデアスケッチをもとに、写真・イラストレーション等の作品要素を収集・制作します。
13	一次制作	●制作 →表現に応じて必要とされる技術・知識を習得します。 →アイデアスケッチをもとに、写真・イラストレーション等の作品要素を収集・制作します。
14	一次制作	●制作 →表現に応じて必要とされる技術・知識を習得します。 →収集・制作した要素を表現方法に応じて、入力（データ化あるいはソフトウェアへの取り込み）します。
15	一次制作	●制作 →表現に応じて必要とされる技術・知識を習得します。 →収集・制作した要素を表現方法に応じて、入力（データ化あるいはソフトウェアへの取り込み）します。
16	一次制作	●制作 →表現に応じて必要とされる技術・知識を習得します。 →入力した要素を編集・加工します。（静止画→編集・加工／動画→映像編集／Web→コーディング）
17	一次制作	●制作 →表現に応じて必要とされる技術・知識を習得します。 →入力した要素を編集・加工します。（静止画→編集・加工／動画→映像編集／Web→コーディング）
18	一次制作	●プレゼンテーション →一次制作の中間報告を軸にプレゼンテーションを実施します。
19	一次制作	●プレゼンテーション →一次制作の中間報告を軸にプレゼンテーションを実施します。
20	一次制作	●制作 →表現に応じて必要とされる技術・知識を習得します。 →入力した要素を編集・加工します。随時、編集結果を確認しながら造形性を高めます。
21	一次制作	●制作 →表現に応じて必要とされる技術・知識を習得します。 →入力した要素を編集・加工します。随時、編集結果を確認しながら造形性を高めます。
22	一次制作	●制作 →表現に応じて必要とされる技術・知識を習得します。 →入力した要素を編集・加工します。随時、編集結果を確認しながら造形性を高めます。
23	一次制作	●制作 →表現に応じて必要とされる技術・知識を習得します。 →入力した要素を編集・加工します。随時、編集結果を確認しながら造形性を高めます。
24	一次制作	●制作 →編集・加工した内容をメディアに応じて出力します。（静止画→印刷／動画→レンダリング／Web→ブラウザへの出力）
25	一次制作	●制作 →編集・加工した内容をメディアに応じて出力します。（静止画→印刷／動画→レンダリング／Web→ブラウザへの出力）
26	一次制作	●制作 →編集・加工した内容をメディアに応じて出力します。（静止画→印刷／動画→レンダリング／Web→ブラウザへの出力）
27	一次制作	●制作 →編集・加工した内容をメディアに応じて出力します。（静止画→印刷／動画→レンダリング／Web→ブラウザへの出力）
28	一次制作	●制作 →出力結果を検討して、必要に応じて修正を行いません。
29	一次制作	●制作 →出力結果を検討して、必要に応じて修正を行いません。
30	一次制作	●プレゼンテーション →一次制作作品についてプレゼンテーションを実施します。 作品講評を実施します。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
31	二次制作（卒業制作展出品作品の制作）	●表現の方向性（造形、メディア、展示形態）について検討 →二次制作に向けて、一次制作における技術あるいは表現上の問題点について検討します。
32	二次制作	●表現の方向性（造形、メディア、展示形態）について検討 →二次制作に向けて、一次制作における技術あるいは表現上の問題点について検討します。
33	二次制作	●現の方向性（造形、メディア、展示形態）について検討 →適宜、アイデアスケッチを作成します。
34	二次制作	●現の方向性（造形、メディア、展示形態）について検討 →適宜、アイデアスケッチを作成します。
35	二次制作	●プレゼンテーション →二次制作の中間報告を軸にプレゼンテーションを実施します。 二次制作作品完成までのスケジュール、想定し得る技術的課題についても明らかにします。
36	二次制作	●プレゼンテーション →二次制作の中間報告を軸にプレゼンテーションを実施します。 二次制作作品完成までのスケジュール、想定し得る技術的課題についても明らかにします。
37	二次制作	●制作 →表現に応じて必要とされる技術・知識を習得します。 →アイデアスケッチをもとに、写真・イラストレーション等の作品要素を収集・制作します。
38	二次制作	●制作 →表現に応じて必要とされる技術・知識を習得します。 →アイデアスケッチをもとに、写真・イラストレーション等の作品要素を収集・制作します。
39	二次制作	●制作 →表現に応じて必要とされる技術・知識を習得します。 →アイデアスケッチをもとに、写真・イラストレーション等の作品要素を収集・制作します。
40	二次制作	●制作 →表現に応じて必要とされる技術・知識を習得します。 →アイデアスケッチをもとに、写真・イラストレーション等の作品要素を収集・制作します。
41	二次制作	●制作 →表現に応じて必要とされる技術・知識を習得します。 →収集・制作した要素を表現方法に応じて、入力（データ化あるいはソフトウェアへの取り込み）します。
42	二次制作	●制作 →表現に応じて必要とされる技術・知識を習得します。 →収集・制作した要素を表現方法に応じて、入力（データ化あるいはソフトウェアへの取り込み）します。
43	二次制作	●制作 →表現に応じて必要とされる技術・知識を習得します。 →入力した要素を編集・加工します。（静止画→編集・加工／動画→映像編集／Web→コーディング）
44	二次制作	●制作 →表現に応じて必要とされる技術・知識を習得します。 →入力した要素を編集・加工します。（静止画→編集・加工／動画→映像編集／Web→コーディング）
45	二次制作	●制作 →表現に応じて必要とされる技術・知識を習得します。 →入力した要素を編集・加工します。随時、編集結果を確認しながら造形性を高めます。
46	二次制作	●制作 →表現に応じて必要とされる技術・知識を習得します。 →入力した要素を編集・加工します。随時、編集結果を確認しながら造形性を高めます。
47	二次制作	●制作 →表現に応じて必要とされる技術・知識を習得します。 →入力した要素を編集・加工します。随時、編集結果を確認しながら造形性を高めます。
48	二次制作	●制作 →表現に応じて必要とされる技術・知識を習得します。 →入力した要素を編集・加工します。随時、編集結果を確認しながら造形性を高めます。
49	二次制作	●プレゼンテーション →二次制作の中間報告を軸にプレゼンテーションを実施します。
50	二次制作	●プレゼンテーション →二次制作の中間報告を軸にプレゼンテーションを実施します。
51	二次制作	●制作 →編集・加工した内容をメディアに応じて出力します。（静止画→印刷／動画→レンダリング／Web→ブラウザへの出力）

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
52	二次制作	●制作 →編集・加工した内容をメディアに応じて出力します。(静止画→印刷/動画→レンダリング/Web→ブラウザへの出力)
53	二次制作	●制作 →出力結果を検討して、必要に応じて修正を行ないます。
54	二次制作	●制作 →出力結果を検討して、必要に応じて修正を行ないます。
55	二次制作	●制作 →出力結果を検討して、必要に応じて修正を行ないます。
56	二次制作	●制作 →出力結果を検討して、必要に応じて修正を行ないます。
57	二次制作	●制作 →卒業制作展に向けて展示計画を確認します。
58	二次制作	●制作 →卒業制作展に向けて展示計画を確認します。
59	二次制作	●制作 →卒業制作展に向けて展示計画を確認します。
60	二次制作	●プレゼンテーション →二次制作作品についてプレゼンテーションを実施します。 作品講評を実施します。

科目名	卒業研究		対象 単位数 必選	短期大学部 幼児教育学科 2年 2単位 必修/短期大学部 生活芸術科 2年 4単位 必修/短期大学部 音楽科 2年 2単位 必修/短期大学部 文化学科 2年 4単位 必修/短期大学部 家政科食物栄養専攻 2年 2単位 選択/短期大学部 健康栄養学科 2年 2単位 選択
担当教員	松田 理香, 浅野 章, 齊藤 弘 久, 小松 太志, 黒沼 令			
開講期	通年			
授業概要	【授業の目的・ねらい】 積極的にフィールドワークに取り組み日常生活の中に埋め込まれたデザインを探ります。デザインの新しい価値や意味を見出し、自分のアイデアを形にします。制作の目的を明確にしてください。 【授業の概要】 研究テーマを決め発表方法をいくつか考えます。そのための資料収集や材料の選定を夏ごろまでに行います。試作を重ね、自分の作品のイメージを絞りこんでいきます。展示会場の下見などしながら本制作し、2月の卒業制作展で展示発表します。			
達成目標	デザインが人間生活にどのように寄与できるかを考えるとともに、学生としての新しい視点を見つけ出すことを目的とします。作品の完成度の高さも大切ですが、主体的な研究・作品制作への取り組みを期待します。			
受講資格	生活芸術科2年生	成績評価 方法	①自分のテーマへの探究心・情報収集の成果 (20点) ②作品への制作姿勢 (40点) ③作品の完成度 (40点)	
教科書	特になし			
参考書	各自の研究制作に対して参考となる書籍や図録、情報などを必要に応じて紹介します。			
学生への要望	30回(60コマ)の授業のみでは卒業研究はできません。専門的な視点を意識して主体的に研究・制作してください。参考資料や使用する道具・素材について、できるだけ多くの現物で検討し、正々買うための準備に時間をかけることが望ましいと考えます。			
オフィスタイム	平日8:30~17:00 (No.1生芸研究室)			
自学自習	①事前学習 制作状況を確認できるよう準備を行うこと (1時間以上) ②事後学習 研究テーマの方向性や展示の方法などを検討しながら、作品制作を進めること (1時間以上)			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	ガイダンス	卒業研究の目的と制作の進め方について説明する。
2	討論会	デザインとは何か、デザインの役割と問題点について考える。デザインが、人や暮らし、社会を豊かにするという目的があることを起点とし、デザインの領域について認識する。明確な目的の必要性を知り、モノやコトに新しい価値や意味を与えるデザインの方法は何かを討論する。
3	研究方法	作品テーマ(表現のための主題)を決定するための研究方法について考える。
4	研究方法	作品テーマ(表現のための主題)を決定するための研究方法について考える。
5	研究資料について	参考文献と参考作品の収集方法を知る。直接取材したりフィールドワーク、ワークショップへの参加などが必要な場合は積極的に取り組む。
6	研究資料について	参考文献と参考作品の収集方法を知る。直接取材したりフィールドワーク、ワークショップへの参加などが必要な場合は積極的に取り組む。
7	研究資料について	参考文献と参考作品の収集方法を知る。直接取材したりフィールドワーク、ワークショップへの参加などが必要な場合は積極的に取り組む。
8	研究資料について	参考文献と参考作品の収集方法を知る。直接取材したりフィールドワーク、ワークショップへの参加などが必要な場合は積極的に取り組む。
9	研究テーマ①	デザインの分野や技法から考えるのではなく、自分が表現したい事柄を文章化して提出する。
10	研究テーマ①	生活の中でどのようなことがデザインの力でより良くなるのかを考えて作業する。
11	研究テーマ②	文章化した表現のためのテーマを読み返し、過不足があれば書き加える。次にキーワードを抜き書きし、考えていることの輪郭を探る。
12	研究テーマ②	文章化した表現のためのテーマを読み返し、過不足があれば書き加える。次にキーワードを抜き書きし、考えていることの輪郭を探る。
13	資料の収集①	自分が取り組むテーマが、デザインの世界でどのように表現されているか、その類型を収集する。
14	資料の収集①	自分が取り組むテーマが、デザインの世界でどのように表現されているか、その類型を収集する。
15	資料の収集②	文章化したテーマをもとに、作品化(視覚化)するために必要な資料を考える。授業時間外で収集した資料をファイリングし、授業で確認・検討を行う。
16	資料の収集②	文章化したテーマをもとに、作品化(視覚化)するために必要な資料を考える。授業時間外で収集した資料をファイリングし授業で確認を行う。
17	ムードボード制作①	収集した資料(画像・テキストなど)をパネルに貼り、各自が考えたテーマを共有する。
18	ムードボード制作①	収集した資料(画像・テキストなど)をパネルに貼り、各自が考えたテーマを共有する。
19	ムードボード制作②	貼り付ける画像やスケッチの大小・傾き・色調のバランスを考えながら、ボードを制作する。
20	ムードボード制作②	貼り付ける画像やスケッチの大小・傾き・色調のバランスを考えながら、ボードを制作する。
21	表現テーマの決定	ムードボードやその他の資料をもとに、各自のテーマを決定する。
22	表現テーマの決定	小さいスケッチ(サムネイル)を描いてみる。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
23	表現技法の決定	テーマを表現するために最も適している技法について考える。
24	表現技法の決定	プリンターでの出力と手描き技法、業者への発注など併用も視野に入れて柔軟に考える。手描きの場合は描画材料の他に、基底材についても考える必要がある。
25	ブレ制作①	材料実験を重ねて、縮小サイズでミニチュアを制作し、おおよその完成予想をイメージする。
26	ブレ制作①	材料実験を重ねて、縮小サイズでミニチュアを制作し、おおよその完成予想をイメージする。
27	ブレ制作②	計画を進める段階で考えられる問題点を予測する。
28	ブレ制作②	材料的な問題、技術的な問題、追加や交換が必要な資料・展示の際の問題点などを細かく予測する。
29	制作計画・材料の手配	時間配分などを考慮しながら本制作の全体計画書を作成する。機器の不具合や材料による修正などが考えられるため、二週間程度の予備日を確保するよう計画する。
30	制作計画・材料の手配	展示作業のイメージを固め、必要な材料・用具を手配する。
31	本制作①（基底材）	作品の基底材に対応した下処理を行うなど、それぞれに必要な準備を行う。
32	本制作①（基底材）	紙を使用する場合は、パネルへの直貼りかフレームに入れるかなどを検討する。
33	本制作②（下絵 1）	表現方法にもよるが下絵・下図を丁寧に描く。大きい画面の作品は、離れて見て全体のバランスを確認する必要がある。
34	本制作②（下絵 1）	パソコンによる制作も仕上がりサイズを常に意識して作業する。機器操作については各自で学習・習得すること。
35	本制作③（下絵 2）	組作品など点数が多い作品はそれぞれの完成度に差が出ないようにバランスをとり、色彩、配置、展示場所などを考えながら制作する。
36	本制作③（下絵 2）	全体と個々の作品の展示効果を考え、自分の作品コンセプトが明確になっているか意識しながら制作する。
37	本制作④（下絵 3）	それぞれの進度に合わせて作業を進める。
38	本制作④（下絵 3）	作業の合間にお互いの作品を確認し、率直に意見交換をする。
39	本制作⑤（下絵 4）	作品のサイズや順番など基本的な間違いがないかを確認しながら、それぞれの進度に合わせて作業を進める。
40	本制作⑤（下絵 4）	作業の合間にお互いの作品を確認し、率直に意見交換をする。
41	本制作⑥（下絵 5）	全体のイメージがコンセプトに合っているか、文字情報などの基本的な間違いがないかなど、細かい部分の確認を行いながら作業を進める。
42	本制作⑥（下絵 5）	作業の合間にお互いの作品を確認し、率直に意見交換をする。
43	本制作⑦（描画・彩色作業 1）	平面構成的な作品の場合は画面の大勢を占める色調を把握する。描画的な作品は画面上で中心になっている部分から描画し、描きこみのバランスを揃えるようにしながら作業を進める。
44	本制作⑦（描画・彩色作業 1）	色彩計画はミニチュア政策の段階で大まかに決めてあるが、原寸大になると再考する部分が出てくるので基調色に基づいて決定していく。
45	本制作⑧（描画・彩色作業 2）	細部にこだわらず全体を意識しながら制作を進める。
46	本制作⑧（描画・彩色作業 2）	パソコン作業では画面上の色彩と出力した場合の色彩が異なるので、ときどき出力しながら色調整を繰り返す作業を行う。
47	本制作⑨（描画・彩色作業 3）	完成に向けて制作を進める。
48	本制作⑨（描画・彩色作業 3）	一定の結果が出たら作品の検証を行う。授業時間外にも空き時間などを利用して作品の質を高める努力をする。
49	本制作⑩（描画・彩色 4 作業 4）	制作に専念する。特にパソコンで制作している場合は、色彩調整に気を配りながら作業を進める。
50	本制作⑩（描画・彩色 4 作業 4）	制作に専念する。特にパソコンで制作している場合は、色彩調整に気を配りながら作業を進める。
51	途中経過の発表会	制作中の作品を全員で鑑賞し感想を述べ合う。
52	途中経過の発表会	テーマとの合致性、今後の問題点について確認し以後の制作の指針とする。
53	修正・仕上げ①	経過発表会で確認した点について修正・見直しなどを行い完成度を高めていく。
54	修正・仕上げ①	経過発表会で確認した点について修正・見直しなどを行い完成度を高めていく。
55	修正・仕上げ②	制作を続ける。
56	修正・仕上げ②	制作を続ける。
57	修正・仕上げ③	会場に作品を運んで鑑賞し、必要に応じて微調整を加える。お互いの作品を確認し合い展示作業の手順などを確認する。
58	修正・仕上げ③	卒業制作展は会場全体の調和を考えながら、まとまった一つの空間となるよう構成する必要があるため、作品の展示場所が変更になることも考慮する。
59	作品の講評・まとめ	作品が生み出されるまでの全工程を振り返りながら、卒業制作展会場で鑑賞する。自分で決定したテーマが表現できているか、メッセージ性が失われていないかなどを検証する。学生・教員が意見や感想を述べ合い、教員は講評を行う。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
60	作品の講評・まとめ	作品が生み出されるまでの全工程を振り返りながら、卒業制作展会場で鑑賞する。自分で決定したテーマが表現できているか、メッセージ性が失われていないかなどを検証する。学生・教員が意見や感想を述べ合い、教員は講評を行う。

科目名	卒業研究		対象 単位数 必選	短期大学部 幼児教育学科 2年 2単位 必修/短期大学部 生活芸術科 2年 4単位 必修/短期大学部 音楽科 2年 2単位 必修/短期大学部 文化学科 2年 4単位 必修/短期大学部 家政科食物栄養専攻 2年 2単位 選択/短期大学部 健康栄養学科 2年 2単位 選択
担当教員	黒沼 令, 浅野 章, 齊藤 弘久, 小松 太志, 松田 理香			
開講期	通年			
授業概要	彫刻は手を通して触覚感覚を働かせながら、素材（粘土、木、石、鉄など）を直に成形していく造形芸術です。また、立体物を立体物として造形していくため、ものと人間の原初の関係に根ざしているとともに、造形の手応えを強く体験できる活動と言えます。彫刻作品をつくっていく中で、ものをつくる喜びや充実感を味わうとともに、彫刻の基礎的な知識や表現の理解を深めることを目標とします。			
達成目標	卒業制作展に向けて作品を制作し、発表を行います。 作品制作の中で、彫刻の基礎的な技能の習得と自己表現、自己探求を深める事を目標とします。			
受講資格	生活芸術科 2年	成績評価 方法	・課題作品 70% ・授業態度 30% 以上の配分で評価する。 60点以上で合格とするが、授業理解度は7割以上を求める。	
教科書	教科書は無し。			
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館の彫刻関係図書 ・美術館（福島県立、郡山市立、他） ・街の中の彫刻（仙台市、福島市、他） ・公募展覧会 			
学生への要望	野外彫刻作品を鑑賞したり、機会があれば彫刻の展覧会を見ることなどを心がけてほしい。			
オフィスタイム	月曜日 Vコマ 水曜日 IV、Vコマ 木曜日 IV、Vコマ 彫刻室、No.2生芸研究室			
自学自習	事前学習、事後学習：授業の内容についてより理解を深めるため授業外にも課題制作を進める事（2時間）			

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
1	ガイダンス	・卒業研究の進め方、設備、道具についてなど説明する。 ・各自、目標や技法について考える。
2	構想	・卒業制作作品を構想する。 ・資料、作品などを参考にしながら、自分が目指す表現について確認する。 ・デッサンする。
3	構想	・第2回の内容をより深める。
4	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。
5	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。
6	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。
7	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。
8	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。
9	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。
10	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。
11	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。
12	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。
13	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。
14	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。
15	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。
16	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。
17	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。
18	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。
19	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。
20	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。
21	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。
22	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。
23	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。
24	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。

-授業内容とスケジュール-

回	項目	授業内容
25	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。
26	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。
27	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。
28	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。
29	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。
30	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。
31	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。
32	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。
33	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。
34	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。
35	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。
36	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。
37	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。
38	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。
39	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。
40	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。
41	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。
42	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。
43	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。
44	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。
45	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。
46	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。
47	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。
48	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。
49	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。
50	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。
51	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。
52	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。
53	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。
54	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。
55	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。
56	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。
57	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。
58	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。
59	作品制作	・各自の進行状況に応じて、制作を進める。
60	合評会	・1年間の成果を確認する。